

5 試験研究

5.1 担当の活動概要

(1) 温暖化対策担当

地球温暖化を含む気候変動は、今や最も重要な地球規模の環境問題として認識されている。温暖化は単に気温が上昇するという現象に止まらず、降水量への影響や自然環境への影響、健康影響など人間の生活基盤や生態系に様々な影響を与えている。また、極端な気象現象の頻度を増加させるとも考えられている。以前、温暖化の影響は北極海における急激な氷の減少や、海面上昇による低海拔島嶼への浸水など、日本から離れた場所で顕在化している現象と捉えられていたが、近年徐々に日本や埼玉県など中庸な気候の地域にもその影響は広がり、影響は顕在化しつつある。

埼玉県は国内でも特に夏場の気温が高い地域として知られている。2007年8月16日には最高気温40.9℃を記録し、当時の日本の最高気温を74年ぶりに更新した。また、長期的にも埼玉県の気温は上昇傾向にある。熊谷気象台の観測では過去100年の熊谷の気温上昇は2.0℃であり、気象庁が発表している日本の100年間の平均気温上昇1.15℃より高く、埼玉県の温度上昇率は高いと言える。特に1980年以降の昇温傾向は激しく、この期間の上昇率を100年に換算すると6.0℃に達している。このような埼玉県における急激な気温上昇は地球温暖化だけではなく、都市化に伴い気温が上昇するヒートアイランド現象との複合的な現象だと考えられるが、実態として埼玉県のような地域でも気温が上昇しており、また、そのことにより引き起こされたと思われる様々な影響も出始めている。

埼玉県ではこれまでも地球温暖化対策地域推進計画等に基づき、様々な温暖化対策やヒートアイランド対策を実行してきた。平成21年2月には、「ストップ温暖化・埼玉ナビゲーション2050ー埼玉県地球温暖化対策実行計画ー」を策定し、中期的温室効果ガス削減目標と実現のための施策を示して推進を図ってきた。また、平成21年3月には「埼玉県ヒートアイランド現象対策ガイドライン」を策定し、具体的なヒートアイランド現象対策を提示した。さらに、平成23年からは県独自の取り組みとして目標設定型排出量取引制度をスタートさせた。

このように、埼玉県では、近年、積極的な温暖化対策を展開しているが、この状況に呼応し、埼玉県環境科学国際センターでは、平成22年4月に新たな担当として「温暖化対策担当」を設置し、温暖化対策に関する研究に本格的に取り組み始めた。

現在、温暖化対策担当では、以前から実施してきた二酸化炭素やフロン類などの温室効果ガスモニタリング、ヒートアイランド現象の把握を目的とした県内温度実態調査に加え、環境省の研究資金である環境研究総合推進費を獲得し、大学や他の都県と共同で「温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究ー埼玉県における温暖化の農業等に与える影響把握手法の開発と評価に関する研究ー」に取り組み、農業分野などを対象に温暖化対策として近年特に注目されている温暖化適応策に関する研究を行っている。また、平成23年度からは、埼玉県の温室効果ガス排出量推計や、県内自治体の温暖化対策を支援するため全市町村の温室効果ガス排出量推計にも取り組んでいる。

(2) 大気環境担当

埼玉県は首都圏の北側に位置し、大気汚染物質の固定及び移動発生源の影響を強く受ける地域である。さらに、その地理的条件により、光化学大気汚染も著しい。最近の諸施策により、従来環境基準達成率が低かった二酸化窒素や浮遊粒子状物質の達成率が向上し、ともに平成19年度以来環境基準をほぼ100%達成し、継続している。しかし、光化学オキシダントの環境基準の達成率は依然として0%の状態が続いており、光化学スモッグ注意報の発令日数は全国でも常に上位であることから埼玉県における重要な課題となっている。また、微小粒子状物質(PM_{2.5})については、平成24年度冬季に中国で高濃度汚染が頻発したことをきっかけとして、日本国内でも越境汚染を含めた健康影響を中心に急激に関心が高まり、『PM_{2.5}』という用語は全国民に知れ渡った。本県におけるPM_{2.5}の環境基準達成率は、平成23年度が0%、平成24年度が50%と改善途上にある。このほか、長期的暴露による健康影響という観点から、様々な大気中の有害化学物質も注目されている。

大気環境担当の主な活動は、埼玉県というフィールドを対象に環境モニタリングを行い、様々な大気汚染物質について現状把握、特性解析、行政施策効果の評価を行うことである。このほか環境制御という観点から、大気汚染物質の新規除去装置の開発、既存の排出低減策の整理とその効果の評価も対象となる。

埼玉県5か年計画(安心・成長・自立自尊の埼玉へ)と環境基本計画に掲げる大気環境保全施策の指標として、光化学スモッグの原因物質である揮発性有機化合物の排出量削減が設定されている。これは、この取組によって、光化学オキシダントやそれに関連して増加する微小粒子状物質の低減を目指すものである。このような状況の下、大気環境担当では、光化学大気汚染を重点的な対象として取り上げ、独自の自主研究課題、あるいは環境部大気環境課等と連携した行政令達課題として、その原因物質である揮発性有機化合物や窒素酸化物の排出削減及び環境動態、生成物質であるオゾンや微小粒子状物質

の環境動態を総合的に調査研究している。広域大気環境に関しては、酸性雨の構成化学成分の動態解析を続けている。また、環境基本計画に掲げられている重点取組施策である石綿の飛散防止に関しても、新たな汚染を引き起こさないための監視という面で行政を支援している。このほか、行政令達課題として、有害大気汚染物質、各種化学物質等のモニタリングを行うとともに、県や市町村の行政現場での案件解決のための支援を行っている。これらの研究遂行のため、国立環境研究所、早稲田大学、北海道大学、愛媛大学、大阪府立大学、近隣の地方環境研究所、民間企業等と連携している。

(3) 自然環境担当

近年の僅か数十年間で急速に地球環境が劣化した。人類生存のための国際的規範となった「持続可能な社会」の実現には地域生態系の保全が不可欠であり、首都圏埼玉の重要な責務でもある。自然環境担当では、持続可能な社会の基盤となる健全で多様な生態系の保全を目指して、以下の研究分野に取り組んでいる。

①生物多様性の現況、変化の把握、②動植物に及ぼす開発や汚染の影響評価、③自然生態系の持つ環境保全機能評価、④生物の保全、環境制御手法の開発

これらの課題は全て埼玉県環境基本計画で「恵み豊かで安心・安全な地域社会の実現」、「持続可能な循環型社会の構築」の項に位置づけられており、関連するみどり自然課、大気環境課、本庄県土整備事務所から令達事業を受託すること等で連携している。

平成25年度は自主研究課題として、「埼玉県における回遊魚の遡上及び陸封に関する実態調査」、「光化学オキシダントによる植物被害の軽減手法に関する検討」、「資源植物による汚染土壌の修復効果にみられる品種間の差の評価」の3課題に取り組んだ。

また、行政令達事業としては、「埼玉県希少野生動植物の種の保護に関する条例」による指定種(ミヤマスカシユリ、サワトラノオ、デンジソウ、ソボツチスガリ、アカハライモリ等)を保全する「希少野生生物保護事業」、奥秩父雁坂峠付近の亜高山帯森林における気象観測モニタリングとシカの食害等を調査する「野生生物保護事業」、光化学スモッグによる植物影響を調査する「大気汚染常時監視運営管理事業」及び「元小山川水環境改善活動に係る魚類調査」の4課題に取り組んだ。他機関との連携では、国立環境研究所とのⅡ型共同研究として「植物のストレス診断と環境モニタリングに関する研究」、法政大学が中心となって進めている環境省環境研究総合推進事業「温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究—埼玉県における温暖化の農業等に与える影響把握手法の開発と評価に関する研究—」、農業環境技術研究所が中心となって進めている環境省環境研究総合推進事業「温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究—不確実性を考慮した農業影響及び適応策の評価—」、埼玉大学が中心となって進めている(独)日本学術振興会 科学研究費補助事業「気候変動下の大規模ヒートアイランドの総合的環境影響評価と適応対策の研究」、「光干渉法による極短時間植物ナノ動態計測に基づく環境汚染評価法の開発」にそれぞれ取り組んだ。

さらに、県民に対する環境学習支援として、県民参加の環境調査や講演、小学校等での総合学習支援、動植物観察会の講師等に積極的に取り組み、平成25年度はこれらを総計で40回以上実施した。

(4) 資源循環・廃棄物担当

資源循環・廃棄物担当では、産業廃棄物及び一般廃棄物について国や埼玉県が推進する循環型社会形成に向けた施策を支援するとともに、埼玉県が直面する廃棄物の諸問題を解決するための調査・研究を実施している。

行政令達業務は、廃棄物の排出、中間処理、最終処分の適正化、再資源化の推進に必要な技術支援を行うとともに、不法投棄等の不適正処理に伴う環境保全上の支障の除去あるいは低減化を、産業廃棄物指導課、資源循環推進課、環境整備センター及び各環境管理事務所と連携を図りながら行っている。最終処分場の管理に関する業務、産業廃棄物の山についての調査・対策、一般廃棄物の不燃ごみ・粗大ごみの適正処理の検討を継続しており、不法投棄関連では酸性汚泥等放置現場の調査・対策などの事案への対応を行い、緊急対応として竜巻災害により発生した廃棄物の安全な処理に必要な技術的支援を行った。

研究業務としては、廃棄物の焼却処理や破碎選別処理、再資源化、そして埋立処分について安全・安心、さらには地球温暖化防止対策が求められており、そのための調査・研究を継続している。最近では、今後も排出量の増加が予想されるアスベストに関して、将来的な健康被害防止の観点から研究を行っている。最終処分関連では、埋立地から漏出する可能性の高い化学物質を安全で安心に処理するための埋立資材の開発やリサイクルの推進に伴い質の変化しつつある埋立廃棄物に対応する埋立技術に関する研究などを行ってきた。近年は廃棄物処理技術、再資源化についても地球温暖化対策の視点も加え、埼玉県の地域性を考慮して調査・研究を行っている。また、不法投棄等による生活環境保全上の支障や廃棄物の除去方法、さらに有害物質の汚染範囲や有害ガス、温暖化ガスの発生状況を現場で迅速に判定するための技術開発を積極的に行っている。

これらの研究の一部を文部科学省や環境省からの外部資金により行っており、現在、「プラスチックが混入した弾性廃棄物地盤の力学及び環境特性に関する研究」や「気候変動を考慮した農業地域の面的水管理・カスケード型資源循環システムの構築」、「地域エネルギー供給のための廃棄物系バイオマスのガス化／多段触媒プロセスの開発」等多岐にわたる研究事業を国立環境研究所、大学等と共同で継続実施している。

さらに、JSTとJICAの共同事業である地球規模の環境問題課題の解決に資する研究(SATREPS)「スリランカ廃棄物処分場における汚染防止と地域特性を活かした修復技術の構築」では、研究だけでなく国際貢献として、日本側研究機関だけでなく、相手国の大学、研究所、官庁等とも連携して研究を進めている。

(5) 化学物質担当

埼玉県環境基本計画では、「環境負荷の少ない安心・安全な循環型社会づくり」に係る施策の一つに「化学物質対策の推進」を掲げており、化学物質の適正管理による環境リスクの低減、化学物質に関する正しい情報共有・相互理解の推進を目的としている。化学物質担当は、化学物質対策に関する行政的方向性を踏まえ、ダイオキシン類や内分泌かく乱化学物質(環境ホルモン)などの化学物質に関する情報収集、環境濃度レベルの把握、計測技術や処理技術の改良・開発に関する調査研究を実施している。近年、残留性の高い化学物質や未規制の有害化学物質による環境汚染が懸念されている。これまでは、微量有害化学物質や新たに注目される環境汚染物質に関する分析方法の開発・改善及び環境モニタリングを中心に調査・研究を行ってきたが、今後は化学物質の環境動態・汚染機構の解明、環境リスク評価なども積極的に実施する必要がある。

自主研究事業は、①ダイオキシン類が大気中から河川水へ移行するプロセスを解明するため「降水によって水環境に移行しうる燃焼由来ダイオキシン類に関する研究」、②新しいタイプの殺虫剤として広く使用されているネオニコチノイド系殺虫剤の環境汚染実態を把握するため「県内の河川におけるネオニコチノイド系殺虫剤の汚染実態の把握」、③環境残留性や生物蓄積性が懸念されている環状シロキサンの発生源・環境汚染レベル等を把握し、環境影響評価に資するため「環状シロキサンの分析法開発と環境汚染実態解明」を実施した。外部研究費による代表研究としては、「PFOS、PFOA及びそれらの前駆物質の起源と水環境動態の解明」、「低分子ポリジメチルシロキサンの高精度分析法開発と環境汚染実態の解明」を実施した。また、外部研究費による分担研究として、名城大学や静岡県立大学などの外部機関と連携し、「新奇ハロゲン芳香族群の環境汚染と生態影響評価」、「廃棄物焼却施設におけるハロゲン化多環芳香族炭化水素類の生成機構解析とリスクベース管理手法の提案」を進めた。

行政令達事業は、汚濁原因調査業務として古綾瀬川のダイオキシン類汚染対策事業に係る潮位変動時水質調査、川底表面底質調査等を行った。法規制、環境監視業務としては、ダイオキシン類発生源調査(排水水、排ガス、ばいじん等)、ダイオキシン類環境調査(大気、土壌)、及び工業団地周辺における大気中揮発性有機化学物質等の調査を行った。また、野鳥の不審死の原因を調べるため、農薬などの分析検査も実施した。さらに、環境部各課や各環境管理事務所が委託した民間分析業者によるダイオキシン類の行政検査結果について、書類精査や立ち入り調査などによる品質管理を行った。

環境国際貢献では、上海大学との共同研究「生活ごみ焼却飛灰の資源化」において飛灰中のダイオキシン類を分析した。また、ポリジメチルシロキサン分析法の国際標準化を目指すため、関連する工業会と協調し、ISO国際会議で新規分析法を提案した。

(6) 水環境担当

埼玉県は、県の面積の約3.9%を河川が占めており、その割合は都道府県の中で1位であることから、県民誰もが川に愛着を持ち、ふるさとを実感できる「川の国埼玉」を実現するための事業を展開している。河川環境については、過去に大きな問題となった水質汚濁は大幅に改善され、BODの環境基準達成率は全国レベルの約90%にまで達している。一方、平成24年度に見直し策定された「埼玉県環境基本計画」では、長期的な目標として「再生したみどりや川に彩られ、生物の多様性に富んだ自然共生社会づくり」が設定され、平成28年度までの施策指標として、公共用水域ではアユが棲める水質(BOD3mg/L以下)の河川の割合が90%、綾瀬川・中川水質ランキングのワースト脱却が示された。

水環境担当では、行政の施策支援及び新たな水環境問題への対応を目標に調査研究に取り組んでいる。公共用水域では、河川の環境基準点における水質調査を継続して実施しており、平成25年度は6月に市野川・徒歩橋でBOD環境基準の超過が観測され、その原因究明のための追跡調査を行った。その結果、流速低下及び水温上昇に伴って藻類が多量に増殖したことが主な要因であったと推察された。工場・事業場の排水水については、一部試料を委託業者とクロスチェック分析を行うことで結果の信頼性を担保している。また、県内の計量証明事業者等を対象に、同一の標準試料を一斉に分析して精度管理を行う事業を担当している。中川の水質ワースト脱却に関する取組として、昨年度は江戸川からの導水試験が実施され、水質分析及び浄化効果の評価を行った。

研究事業では、水環境の汚濁特性に関する研究として、河川での内部生産現象の実態解明と影響評価、中小河川・水路

における水生生物の生息環境の評価手法の検討、湖沼水質形成における沿岸帯の機能とその影響因子の評価を実施した。水環境の修復及び水処理技術に関する研究として、下水処理プロセスにおけるN₂O生成ポテンシャル評価などを行った。これら研究を推進するために、大学、企業、研究機関と連携するほか、外部資金の獲得を積極的に行い、国内及び海外での学会等で研究成果を公表している。また、国際貢献活動では、中国環境技術セミナーに研究員を派遣し、排水処理技術に関する講義指導を行ったほか、平成25年度から山西省水環境保全モデル事業として、晋城市の沁河及び丹河を対象に水質浄化及び生態系保全に関する共同プロジェクトを開始した。

(7) 土壌・地下水・地盤担当

土壌・地下水・地盤担当が担当する業務は多岐に渡り、その内容は概ね、①土壌・地下水汚染に関する調査研究、②地質地盤情報の収集・管理・解析、③地質地盤被害に関する調査・研究、④騒音振動公害に関する調査に分けることができる。

①については、水質汚濁防止法に基づく地下水の常時監視、土壌・地下水汚染発覚時の発生源特定など行政令達に基づく業務のほか、行政課題の解決に役立つ技術開発等の研究を行っている。近年の地下水汚染に関する研究としては、地下水質特性の総合評価とその応用に関する研究があげられる。これは、井戸の諸元情報が乏しく帯水層の特定が困難な事例に対処するため、諸元が明確な井戸について水素イオン濃度等の基本情報、重金属類濃度及び主要溶存イオン濃度を調査収集し、帯水層深度による県内地下水質の地域特性を明らかにしようとするものである。また土壌汚染に関する研究としては、自然由来の土壌汚染の抑制を目的とした海成堆積層の風化メカニズムと有害重金属類の溶出挙動の解明に関する研究、及び有害重金属類が植物に吸収される際の移行特性を明らかにすることを目的とした有害重金属類の土壌中の存在形態の解明に関する研究を行っている。②については、県が保有するボーリングデータをデータベース化した「地質地盤インフォメーションシステム」を運用し、地下構造情報の収集・管理及び関係課所への提供を行うとともに詳細解析を施して地域ごとの環境特性の相違を明らかにするなどデータの高付加価値化を図っている。県では東日本大震災の被害をふまえて新たに埼玉県地震被害想定調査を実施したが、その中の県内震度分布の推計計算には、地質地盤インフォメーションシステムに集積されたデータが活用されている。また、近年の地球温暖化問題に鑑み、再生可能エネルギーである低温地熱資源に関する情報の収集整備及び地域特性解析に関する研究を実施している。この研究の一環として、県内の観測井を対象に地下の温度分布を実測調査するとともに、地中熱利用システムの導入時に行われる熱応答試験の簡便化を図るための検討を行っている。③については、地下水汚染や地震など、地域の地質地盤と密接に関連する問題に対処するために、地下情報の取得に必要な物理探査技術について、その適用方法の検討や新たな探査技術の開発などに取り組んでいる。④については、水環境課及び市町村と連携して苦情を解決するための調査・技術指導などを行っている。

(8) 環境放射能担当

平成23年(2011年)3月に発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質は、プルームとして大気中を移動し、降雨等により、土壌、水、植物、建物を汚染した。その影響は、約200km離れた本県にも及び、三郷市、吉川市が放射性物質汚染対処特措法の汚染状況重点調査地域に指定された。県では、環境基本計画に“放射性物質による環境汚染への対応”を盛り込み、放射性物質の測定や放射線量の低減を優先的に取り組むべき課題として位置づけた。環境部では、放射線の監視体制を強化するため、空間放射線量を監視するモニタリングポストを6ヶ所に設置して24時間連続測定している。また、サーベイメーターによる校庭等県内24ヶ所の空間放射線量を測定しているほか、ゲルマニウム半導体検出器による各種環境試料のガンマ線放出核種測定を行っている。

環境科学国際センターでは、「放射性物質による汚染状況の把握等に関する研究」を研究所中期計画の重点課題に対応する特定研究の1つに位置づけている。平成24年3月にゲルマニウム半導体検出器を整備し、平成24年度から担当職員1名の暫定配置を得て、環境試料の放射性核種分析を開始した。放射線の監視業務は、当初、土壌・地下水・地盤担当の所掌として開始したが、平成25年度から環境放射能担当として独立した組織が担当することとなり、担当職員1名と兼務職員3名による体制で対応している。

平成25年度に実施した業務は、県単独の事業として、モニタリングポスト設置地点の周辺土壌(6地点、表層下0-5cm及び5-20cm)、公共用水域環境基準点の水質及び底質(各6地点)、環境科学国際センター生態園の土壌(3地点、表層下0-5cm及び5-20cm)及び底質(1地点)の各試料について、ゲルマニウム半導体検出器を用いた核種測定を行った。また、原子力規制庁の委託事業として、大気浮遊じん(1地点、毎月3回、3ヶ月分をまとめて1検体)、土壌(1地点、表層下0-5cm及び5-20cm)について、ゲルマニウム半導体検出器を用いて核種測定したほか、分析比較試料(模擬土壌、模擬牛乳、寒天)による機器校正に参加した。

5.2 試験研究事業

5.2.1 自主研究

(17課題)

テーマ名・期間	目的	担当者	概要
自然環境データベースのGISによる構築・運用－森林変遷の把握と温暖化緩和機能の評価－ (平成25～27年度)	埼玉県を対象とした地理情報システム(GIS)による自然環境データベースのさらなる充実を図るとともに、構築したGISデータベースを用い、埼玉県の詳細な森林の実態や変遷を把握する。また、森林等の温暖化緩和機能を評価する。	嶋田知英 増富祐司 三輪誠	110頁
微小有機成分分子の一次排出および二次生成の寄与割合推定に関する基礎的研究 (平成23～26年度)	微小粒子状物質(PM _{2.5})のバイオマス燃焼起源や二次生成の指標となる有機成分を測定し、大気中での動態を明らかにするとともに、一次排出及び二次生成の寄与割合を適切に推定するための手法検討やデータ収集などの基礎的な研究を行う。	長谷川就一 米持真一 梅沢夏実 松本利恵 佐坂公規	111頁
微小エアロゾルの通年観測試料を活用した各種大気イベントの解析 (平成24～26年度)	当センターでは全国的にも事例の少ない日単位のPM _{2.5} の通年測定を2009年4月から継続しているが、同時に、週単位のPM _{2.5} およびPM ₁ の通年測定も実施している。本課題では、これら試料を活用して、高濃度事例や越境大気汚染などの各種大気汚染イベントを評価する。	米持真一 梅沢夏実 長谷川就一 松本利恵	112頁
光化学反応によるBVOC由来生成物の測定手法の構築と埼玉県における現況把握 (平成25～27年度)	微小粒子状物質(PM _{2.5})の原因物質の一つである揮発性有機化合物(VOC)のうち、植物由来のVOC(BVOC)の動態やPM _{2.5} 生成への寄与はまだ十分に把握されていない。そこで、BVOCの光化学反応により生成するPM _{2.5} 中の指標化合物について測定・分析手法を構築し、本県における現況を把握する。	佐坂公規 梅沢夏実 松本利恵 米持真一 長谷川就一 野尻喜好	113頁
埼玉県における回遊魚の遡上及び陸封に関する実態把握 (平成23～25年度)	最近、東京湾から埼玉県内の河川に、魚類、円口類および甲殻類に属する生物種の遡上が多く見られているが、その実態は明らかにされていない。本研究の目的は、遡上する生き物の種類や遡上する時期等を調査し、県民にわかりやすい生き物の遡上情報を提供するとともに、魚類のうち、アユやワカサギなどの海と淡水を行き来する両側回遊魚が淡水に陸封される実態を調査して、生物多様性保全の基礎資料とするものである。	金澤光 三輪誠 王効拳 米倉哲志	114頁
光化学オキシダントによる植物被害の軽減手法に関する検討 (平成23～25年度)	埼玉県では、夏季の光化学オキシダント濃度が著しく高く、その主成分であるオゾンによる植物被害が顕在化している。例えば、本県の主要農作物であるハウレンソウでは、春から初夏に生じる比較的高い濃度のオゾンの影響により葉に可視被害が発現し、それが原因で出荷不能になる事例が報告されている。そこで、本研究では、オゾンによるこのような植物被害を軽減するため、オゾンに強い品種を選抜したり、オゾン被害を軽減する栽培手法等を検討し、それらを提案することを目指す。	三輪誠 王効拳 米倉哲志 金澤光	115頁
資源植物による汚染土壌の修復効果にみられる品種間の差の評価 (平成25～28年度)	汚染土壌の修復技術として注目されるファイトレメディエーションでは専用植物が使用されてきた。本研究では、専用植物の代わりに、トウモロコシ、ヒマワリ、大豆を中心としたバイオ燃料等として利用可能な資源植物を活用することとし、その修復効率の違いを評価する。品種毎に栽培試験を行うことにより、環境修復に最適な品種を選定することを目的とする。	王効拳 米持真一 磯部友護 細野繁雄 三輪誠 米倉哲志 金澤光	116頁

テーマ名・期間	目 的	担 当 者	概要
降水によって水環境に移行しうる 燃焼由来ダイオキシン類に関する 研究 (平成23～25年度)	廃棄物焼却炉等の排出ガスとして大気中に放出され、雨を介して河川に移行するダイオキシン類の量を調査し、大気環境が水環境に与える影響を考察する。	養毛康太郎 大塚宜寿 野尻喜好 松本利恵	117頁
県内の河川におけるネオニコチノ イド系殺虫剤の汚染実態の把握 (平成24～25年度)	水環境試料を対象としたネオニコチノイド系殺虫剤の分析方法を確立するとともに、県内の河川における分布を明らかにし、汚染実態を把握することを目的とする。	大塚宜寿 茂木守 野尻喜好 養毛康太郎 堀井勇一	118頁
環状シロキサンの分析法開発と環 境汚染実態解明 (平成24～26年度)	環境残留性・生物蓄積性の懸念される環状シロキサンについて、環境試料の分析法検討、下水処理施設等の発生源調査、周辺河川の濃度分布調査を行うことで環境動態に関する知見を集約し、環状シロキサンの環境影響評価に貢献する。	堀井勇一 茂木守 大塚宜寿 養毛康太郎 野尻喜好	119頁
県内河川における内部生産現象 の実態解明と水質汚濁影響評価 (平成24～26年度)	県内で河川形態や水質が異なる上流域及び中流停滞性水域を対象に、内部生産の実態を把握するとともに、生産を支配する因子を明らかにして有機汚濁の観点から環境影響を評価する。	高橋基之 池田和弘 柿本貴志 見島伊織 渡邊圭司	120頁
下水処理プロセスにおけるN ₂ O生 成ポテンシャルの評価 (平成24～26年度)	県内の下水処理施設を対象とし、N ₂ O生成に関連する代謝速度を実験的に測定することにより、下水処理プロセスからのN ₂ O生成のポテンシャルを評価し、温室効果ガス排出抑制条件を明らかにすることを目的とする。	見島伊織	121頁
中小河川・水路における水生生物 の生息環境の評価手法の検討 (平成25～26年度)	主に大里用水の水路網に焦点を当て、河川環境・水質・生息生物等の調査に基づき、水生生物の生息環境を整理・解析し、カルテのような形によるその評価手法を検討する。	木持謙 田中仁志 金澤光	122頁
埼玉県における地下水質特性の 総合評価とその応用に関する研究 (平成23～26年度)	本研究は埼玉県平野部における地下水質特性を評価・解析することにより、環境管理上懸案となっている様々な地下水汚染に対して効率的な監視体制や迅速かつ適切な汚染状況の把握手法の提案を目指す。	八戸昭一 石山高 濱元栄起 白石英孝	123頁
海成堆積物の風化メカニズムと土 壌汚染リスク管理に向けた検討 (平成24～26年度)	海成堆積物は一定期間大気中で放置されると、硫化鉱物の風化により酸性土壌へと変化し、様々な有害重金属類が溶出する。本研究では、硫化鉱物の風化過程と土壌pHの変化について解析し、この結果を基に海成堆積物の土壌汚染リスク管理手法を検討する。	石山高 八戸昭一 濱元栄起 白石英孝 細野繁雄	124頁
土壌中における有害重金属の存 在形態と植物への移行状況の解 析 (平成24～26年度)	土壌汚染が発生した場合、土壌を介して有害物質が植物へと移行する可能性が懸念される。植物への移行特性を解析するには、間隙水中での溶出形態や土壌中での存在形態の把握が不可欠である。本研究では、中国農用地汚染土壌を用いて、重金属類の溶出形態と存在形態を分析する。	石山高 八戸昭一 濱元栄起 白石英孝 細野繁雄	125頁
地中熱利用システムのための地下 熱環境評価手法と熱応答試験装 置の開発 (平成24～26年度)	本研究は、再生可能エネルギーのひとつとして期待されている地中熱エネルギーに着目し、設計や施工に役立つ情報の整備を行うことを目的としている。特に、熱の採りやすさを事前に把握できる「熱応答試験」について研究し、数値実験や現場での実験を通じて、埼玉県の地下環境に適した試験方法等の検討を行う。	濱元栄起 八戸昭一 白石英孝 石山高 佐竹健太	126頁

5. 2. 2 外部資金による研究事業

(34課題)

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
環境省 環境研究総合推進費 (平成22～26年度) 研究分担代表:法政大学 その他連携先:東京都環境科学研究所、長野県環境保全研究所	「温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究(S-8-2(1)④-2)―埼玉県における温暖化の農業等に与える影響把握手法の開発と評価に関する研究―」 地域における温暖化対策を推進するためには地域の脆弱性を考慮した戦略が必要となる。しかし、現在、温暖化影響すら十分把握されていない。そこで、特に温暖化適応策を推進するため、地域性が高い農作物に注目し、温暖化による地域農作物への影響評価を検討する。また、埼玉県における温暖化影響の実態把握のための情報収集等を行う。	嶋田知英 米倉哲志 増富祐司 三輪誠	127頁
環境省 環境研究総合推進費 (平成22～26年度) 研究分担代表:(独)農業環境技術研究所 その他連携先:(独)農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所	「温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究(S-8-1(6)③)―不確実性を考慮した農業影響および適応策の評価―」 日本全国を対象として、米などの作物への温暖化影響評価および影響軽減のための適応策とその効果を予測の不確実性を考慮に入れて広域的に評価する。当センターは主として予測の不確実性を考慮に入れた影響評価および不確実性低減手法の開発を行う。	増富祐司 三輪誠 米倉哲志	127頁
環境省 環境研究総合推進費 (平成23～25年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター 連携先:(独)国立環境研究所、日本工業大学、長崎大学	「アスベスト含有建材の選別手法確立と再生砕石の安全性評価に関する研究」 本研究は、再生砕石の製造ルートへのアスベスト含有建材混入の実態を把握し、防止する方法を提示することにより、リサイクルの推進と安全性の両立を図ることを目的とする。	渡辺洋一 (代表) 川寄幹生 磯部友護 鈴木和将	128頁
環境省 環境研究総合推進費 (平成23～25年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「一般廃棄物不燃・粗大ごみの適正処理に関する研究」 本研究では、一般廃棄物不燃・粗大ごみの適正処理を破碎選別処理後の不燃残さの質から考察し、現在埋立処分されている不燃残さの減量化及び資源化を図るためには何が必要なのか検討を行う。	川寄幹生 (代表) 磯部友護 鈴木和将 渡辺洋一	128頁
環境省 環境研究総合推進費 (平成23～25年度) 研究代表:北海道大学 その他連携先:日本工業大学、(独)国立環境研究所、長崎大学、東急建設(株)	「中間処理残さ主体埋立地に対応した安定化促進技術の開発」 近年の我が国の埋立地では、中間処理残さが大半を占めている。本研究では、中間処理残さの安定化過程に関し、現場調査から安定化の実態と課題を把握し、埋立物の物理・科学特性を改善するための混合埋立手法や、機能性覆土の導入効果を実験から検証し、次世代型の埋立処分技術を確立する。	磯部友護 鈴木和将 川寄幹生	129頁
環境省 環境研究総合推進費 (平成23～25年度) 研究代表:(独)国立環境研究所 その他連携先:福岡大学、京都大学、埼玉大学、日本工業大学、神奈川県環境科学センター、千葉県環境研究センター	「最終処分場機能の健全性の検査手法と回復技術に関する研究」 構造の古い処分場や管理が不十分な処分場は、廃止までの期間が長期化するなど不健全な負の遺産の予備軍である。本研究では、物理探査等の検査技術、構造安定性等の数値解析などにより、処分場の健全性をスクリーニングする一連の検査手法の開発を行う。	磯部友護	129頁

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
<p>環境省 環境研究総合推進費 (平成23～25年度) 研究代表:(公財)日本産業廃棄物処理振興センター その他連携先:北海道大学、日本工業大学、桜美林大学、環境資源システム総合研究所、富山県立大学</p>	<p>「産業廃棄物マニフェスト情報の信頼性の確保と多面的活用策の検討」 産業廃棄物の3R推進と適正処理を実現し、持続可能な社会を構築するために必要不可欠な産業廃棄物の質・量の流れを正確に把握するため、既存のマニフェストシステムの運用実態とその情報の活用実態の分析、実際の処理現場での情報の信頼性の検証を行い、活用可能性を明らかにする。あわせて、国内外のマニフェストシステムの活用事例を解析する。分担研究として、産業廃棄物の分析を行い、マニフェストに付加する情報としての質データの活用可能性を検討する。</p>	渡辺洋一	130頁
<p>環境省 環境研究総合推進費 (平成24～26年度) 研究代表:(独)国立環境研究所(25年12月から岡山大学) その他連携先:名古屋大学</p>	<p>「地域エネルギー供給のための廃棄物系バイオマスのガス化／多段触媒変換プロセスの開発」 廃棄物系バイオマスをガス化後触媒改質し、生成するH₂、CO、CO₂等含有ガスに対し異なる温度範囲でさらに触媒を用いて質変換し、付加価値のあるCH₄およびCOを高効率に回収するガス化/多段触媒変換プロセスを開発する。さらに、これらの開発要素技術を実際の地域に適用するシミュレーションを通じて、総合システムの最適な導入条件と成果を提示する。</p>	鈴木和将	130頁
<p>環境省 環境研究総合推進費 (平成25～27年度) 研究代表:(公財)産業廃棄物処理事業振興財団 その他連携先:九州大学、京都大学、長崎大学、長野県立短期大学、前田建設工業(株)</p>	<p>「プラスチック等が混入した弾性廃棄物地盤の力学及び環境特性に関する研究」 プラスチック等が混入した廃棄物地盤の力学特性や環境特性を明らかにし、その評価法を提案し、適切かつ経済的な廃棄物地盤の利用及び構築(例えば発電風車等)の可能性について検討することを目的とする。</p>	川寄幹生	131頁
<p>環境省 環境研究総合推進費 (平成24～26年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター</p>	<p>「低分子ポリジメチルシロキサンの高精度分析法開発と環境汚染実態の解明」 本研究では、低分子シロキサンの中でも国際的に優先してリスク評価が取り組まれている環状及び鎖状の4～6量体を中心に、まず、公定法への提案を目指した高精度分析法開発を行う。次にこの確立した分析法をもとに発生源データの整備、環境中への排出状況把握、環境動態解析を行う。</p>	堀井勇一 (代表) 養毛康太郎	131頁
<p>環境省 環境研究総合推進費 (平成23～25年度) 研究代表:静岡県立大学</p>	<p>「廃棄物焼却施設におけるハロゲン化多環芳香族炭化水素類の生成機構解析とリスクベース管理手法の提案」 ダイオキシン類と同様に燃焼に伴い非意図的に発生し、ダイオキシン類と同等以上の環境リスクが指摘されている塩素化または臭素化した多環芳香族炭化水素類について、既存の廃棄物焼却施設を想定した生成機構及び生成速度の解析を行い、さらに実施設からの排出実態等を基にしたリスクベース管理手法を提案する。</p>	堀井勇一	132頁
<p>環境省 環境研究総合推進費 (平成23～25年度) 研究代表:滋賀県琵琶湖環境科学研究センター その他連携先:龍谷大学、東レテクノ(株)</p>	<p>「湖沼水質形成における沿岸帯の機能とその影響因子の評価」サブテーマ3「浅い富栄養化池沼の好気、嫌気条件におけるシードバンクのポテンシャルの把握」 湖沼沿岸帯は水質形成に大きく寄与する植物プランクトンの貯蔵庫(シードバンク)として機能していると考えられる。一方、湖沼において底層の貧酸素化が問題となっている。本研究は山ノ神沼の底質を用いて、好気、嫌気条件がシードバンク機能に及ぼす影響を評価する。</p>	田中仁志	132頁

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
厚生労働省 厚生労働科学研究費補助金(平成25～26年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:早稲田大学理工学術院、(公財)労働科学研究所	「作業実態に応じた効果的なVOC発散防止・抑制方法に関する調査研究」 省令改正に伴う、作業現場における局所排気以外の方法による発散防止・抑制方法の導入の可能性について、英国における情報収集および国内への適用性について検討するとともに、独自の手法を開発する。	米持真一 (代表) 梅沢夏実	133頁
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金(平成24～26年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:中国・上海大学、中国環境科学研究院	「磁気分離法を利用した微小粒子中金属の化合形態の解明」 自ら開発した、磁氣的性質を利用して粒子状物質中に含まれる金属元素成分の分離法を応用し、PM ₁ 中に含まれる金属元素成分の化合形態の解明を試みる。また中国国内においても試料採取を行い、本手法を適用することで、越境汚染の新たな評価手法を開発する。	米持真一 (代表) 梅沢夏実 王効挙	133頁
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金(平成24～25年度) 研究代表:埼玉大学	「機能的光断層画像法による植物の無侵襲環境ストレスモニタ法の開発」 Optical Coherence Tomographyと呼ばれる光断層画像法及びバイオスペックルと呼ばれる生体内部の物質の輸送や微細構造の変化を反映している動的な光散乱現象に基づいて、生理学的反応を3次的に高感度に観測可能なシステムを構築する。さらに、環境条件に敏感に反応する植物体の部位の特定をおこなうとともに、オゾンなどの環境ストレス下の植物に対して、実験により本手法の有効性を検証し、環境汚染影響評価手法としての可能性を検討する。	米倉哲志	134頁
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金(平成23～25年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター 連携先:山西農業大学、上海大学、吉林省農業環境資源研究センター	「中国農用地汚染土壌における植物を用いた収益型修復技術の確立」 広範囲の汚染土壌を再生可能資源として有効利用及び効率的に修復する手法の確立は緊急かつ重要な課題となっている。本研究では、深刻な問題となっている中国の農用地汚染土壌を対象として、バイオ燃料用植物の有効利用と効率的浄化を同時に実現できる収益型植物修復技術の確立を行う。	王効挙 (代表) 米持真一 磯部友護 細野繁雄	134頁
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金(平成25～27年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:北海道大学、北海道立総合研究機構環境科学研究センター、他	「広域測定網における大気汚染測定フィルターの再利用による光学的黒色炭素粒子の測定」 地方自治体の既存の観測網で用いられた分析済の大気汚染測定フィルターを測定試料として再利用し、近年開発された光学的測定法により黒色炭素(ブラックカーボン:BC)濃度を測定する。この方法により、新たな機材や多くの労力を使わずに、全国のBCの挙動を明らかにする。	松本利恵 (代表)	135頁
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金(平成25～27年度) 研究代表:秋田大学 その他連携先:日本大学、インドネシア国立ガジャマダ大学	「東南アジアにおける水銀利用による環境汚染の回復と持続的産業発展に関する研究」 インドネシアなどの多くの開発途上国では、小規模金採掘場に使用されている水銀による土壌や河川の水銀汚染が深刻化している。本研究では、インドネシアの小規模金採掘地域に対して、水銀汚染環境からの回復と健康被害の回避対策・地域産業発展 という2側面のアプローチから現地研究調査を行う。	王効挙	135頁
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金(平成23～25年度) 研究代表:名城大学	「新奇ハロゲン芳香族群の環境汚染と生態影響評価」 本研究では、高塩素・臭素化PAHsの合成を始め、それらの環境汚染分布、発生源、環境動態、そして生体毒性評価の各研究を柱にし、得られた個々の結果からハロゲン化PAHsにおける総合的な環境影響評価を目指す。	堀井勇一	136頁

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金(平成23～25年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「PFOS、PFOA及びそれらの前駆物質の起源と水環境動態の解明」 生物に対する有害性が指摘されている難分解性物質、ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及びペルフルオロオクタン酸(PFOA)による河川水の汚染原因を解明するとともに、それらの前駆物質による環境汚染実態とその汚染機構を解明する。	茂木守 (代表) 野尻喜好 堀井勇一	136頁
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金(平成24～26年度) 研究代表:滋賀県琵琶湖環境科学研究センター その他連携先:神戸大学、滋賀県立大学、兵庫県立大学	「湖沼に蓄積する難分解性溶存有機物の藻類影響評価試験法の開発」 湖沼において環境基準達成を困難にしている一因として蓄積性難分解性溶存有機物の増加が疑われている。本研究では、それら溶存有機物が増加した場合に起こる将来的な生態系への影響を把握するために、藻類に対する影響評価手法を開発する。	田中仁志	137頁
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金(平成25～28年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター その他連携先:富山大学、東北大学、氷見市教育委員会、(独)国立環境研究所	「稀少淡水二枚貝のイシガイ類保全のための人工増殖に向けた餌資源の解明」 淡水二枚貝イシガイ類はタナゴ類の産卵母貝として知られるが、県内のみならず、全国的に絶滅が危惧されている。イシガイ類の保全のために、餌資源を明らかにして人工増殖の技術を確立する。	田中仁志 (代表)	137頁
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金(平成25～27年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「放射光鉄形態解析を利用した鉄電解型浄化槽におけるリン除去の制御」 小規模分散型の小型浄化槽においては鉄電解法を組み込んだリン除去型が普及しつつあるが、そのリン除去機構の詳細は明らかではない。本研究では、放射光を応用した測定を用い、リンと結合する鉄の形態を測定し、リン除去機構を明らかにする。さらに、検証実験やモデル解析からリン除去安定化の制御手法を確立することを目的とする。	見島伊織 (代表)	138頁
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金(平成23～25年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター 連携先:(独)産業技術総合研究所(平成25年度)	「アレイの指向性制御によるFocused微動探査法の開発」 本研究は地震計アレイの深度方向指向性を制御し、計測対象にフォーカシングした地下情報の収集を可能とする新たな計測法の導出を目的とし、地震計アレイの深度方向指向性に関する理論及びその制御方法等について検討を行う。	白石英孝 (代表)	138頁
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金(平成24～27年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「関東平野における地下熱汚染の把握と将来予測」 温暖化によって気温の上昇だけではなく地下の温度も上昇傾向にあることが分かってきた。本研究は、関東平野において地下水観測井を活用し地下温度計測を実施することで、関東平野における地下の温暖化の程度を明らかにすることを目的とする。	濱元栄起 (代表)	139頁
(独)日本学術振興会 科学研究費補助金(平成25～27年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「鉄酸化物分別溶解法を用いた土壌から地下水への砒素溶出メカニズム解析手法の開発」 砒素による地下水汚染は、日本をはじめ世界各地で大きな環境問題となっている。汚染対策を適切に実施するためには、汚染メカニズムの解明が不可欠である。本研究では、鉄酸化物分別溶解法を適用した簡便迅速な砒素溶出メカニズム解析手法を開発する。	石山高 (代表) 八戸昭一 濱元栄起	139頁

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
<p>(独) 科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業(CREST) (平成21～26年度) 研究代表:高知大学 その他連携先:北海道大学、(独)国立環境研究所、岡山大学、京都大学、鳥取大学、愛媛大学</p>	<p>「気候変動を考慮した農業地域の面的水管理・カスケード型資源循環システムの構築」サブテーマ4「面的水管理・カスケード型資源循環システムの統合評価」 全体研究は以下の研究からなる。(1)資源創出とN₂O排出抑制を同時に実現する面的植物浄化・水再生システムの構築、(2)農業地域に適した分散型水・資源再生システムの開発、(3)農業地域における水・バイオマス資源のカスケード型循環利用システムの構築、(4)面的水管理・カスケード型資源循環システムの統合評価。本機関は、他機関と協力し、本全体研究で開発する(1)～(3)の諸技術から構成する全システムの環境負荷、経済等の全体評価を分担研究する。</p>	長谷隆仁	140頁
<p>(独) 科学技術振興機構 地球規模課題対応国際科学技術協力事業(SATREPS) (平成22～27年度) 研究代表:愛媛大学 その他連携先:(独)産業技術総合研究所、大阪府立大学、東京大学、(独)国立環境研究所、三栄ハウス(株)、(一社)海外環境協力センター、(株)数理計画、メキシコ・国立環境研究研修センター他</p>	<p>「オゾン、VOCs、PM2.5生成機構の解明と対策シナリオ提言共同研究プロジェクト」 メキシコにおける大気中のオゾン、VOC、PM2.5の生成メカニズムの解明や曝露量の把握を行い、大気汚染対策シナリオを提言する。そのため、オゾンやPM2.5の環境動態を日本とメキシコを中心に解明し、二国間に共通する側面や地域独自の特徴を把握する。これを基にメキシコにおけるオゾン、VOC、PM2.5の生成メカニズムを明らかにする。</p>	長谷川就一	140頁
<p>(独) 科学技術振興機構 地球規模課題対応国際科学技術協力事業(SATREPS) (平成23～27年度) 研究代表:埼玉大学 その他連携先:早稲田大学、(独)産業技術総合研究所、ペラデニヤ大学、ルフナ大学、キャンディ基礎研究所、全国廃棄物管理支援センター、中央環境省</p>	<p>「スリランカ廃棄物処分場における地域特性を活かした汚染防止と修復技術の構築」 持続可能な低コスト・低メンテナンス・低環境負荷の環境汚染防止技術や廃棄物処分場修復技術の開発・導入により、スリランカ国の廃棄物問題解決への貢献を目指す。</p>	長森正尚 渡辺洋一 磯部友護	141頁
<p>公益信託 下水道振興基金研究助成(平成24～25年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター 連携先:茨城大学、日本大学</p>	<p>「雨天時汚濁負荷の変動に伴うN₂O発生のモデル化と多面的環境負荷削減効果の検討」 雨天時の汚濁負荷変動に伴うN₂O発生の変動をモデル化することで、温室効果ポテンシャルや富栄養化ポテンシャルの変化を解析し、雨天時下水処理システムの最適化の検討を行う。</p>	見島伊織 (代表)	141頁
<p>公益財団法人鉄鋼環境基金研究助成(平成24～25年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター 連携先:茨城大学、日本大学</p>	<p>「生物学的窒素除去におけるN₂O発生のモデル化および制御」 生物学的窒素除去において、N₂O発生に与える影響因子を明らかにし、N₂O発生の動力学モデルの構築を行う。N₂O発生量の時間的ならびに空間的変動特性を解析することで、不確実性を考慮したN₂O発生を抑制する手法の検討を行う。</p>	見島伊織 (代表)	142頁

資金名・期間・連携先	研究課題名及び目的	担当者	概要
科学技術振興機構復興促進プログラム(A-STEP) (平成24～25年度) プロジェクトリーダー:(株)環境測定サービス その他連携先:茨城大学、茨城県工業技術センター	「水質解析による水道管内面劣化診断手法の開発」 水道管ネットワークから採取した水試料を用いて、水中固形物の粒度分布と化学組成などの関係について統計解析などから検討し、水道管内面の劣化診断手法を構築することを目的とする。特に、Feなどの酸化形態の指標の可能性について研究する。	見島伊織	142頁
(一財)日本自動車研究所委託研究費(平成25年度) 研究代表:埼玉県環境科学国際センター	「大気環境の改善とバイオマス由来粒子の組成に関する調査研究」 近年、PM2.5に含まれる自動車由来の炭素粒子濃度は減少傾向にあるが、二次生成による有機粒子の改善傾向は顕著ではない。加えて、年間を通じてバイオマス由来の炭素粒子の相対的寄与の増加が指摘されている。本課題では、周囲を田圃で囲まれた環境科学国際センターをフィールドとして、夏季のPM2.5に含まれるバイオマス由来二次生成粒子の分析方法を確立し、その組成分析を行う。	坂本和彦 (代表) 佐坂公規	143頁
韓国済州緑色環境支援センター研究基金(平成25～26年度) 研究代表:韓国済州大学校	「済州地域における微細粒子の排出源推定のための超微粒子状物質調査」 韓国済州島ハルラ山で、毎月2週間、PM2.5およびPM1の採取を行い、済州島における微小エアロゾルの実態を把握する。本試料採取は、夏季と冬季には、中国および日本国内と同期して行うことで、越境大気汚染について知見を得る。	米持真一 田中仁志 坂本和彦	143頁

5.2.3 行政令達

(39事業)

事業名	目的	担当	関係課	概要
ストップ温暖化・埼玉ナビゲーション2050推進事業	県内温室効果ガスの排出量、CO2濃度、県内各地の温度データ等を調査・統合し、県内における温暖化の状況や温暖化対策の効果等について横断的な分析を行う。	温暖化対策担当 自然環境担当	温暖化対策課	145頁
地理環境情報システム整備事業	環境保全施策策定に資するための基礎的な環境情報を地理情報システムとして整備するとともに、電子地図及び各種空間情報を県民に提供し、環境学習や環境保全活動を支援する。	温暖化対策担当	温暖化対策課	145頁
有害大気汚染物質等モニタリング調査事業(地球環境モニタリング調査)	地球環境問題に係る調査の一環として、大気中の原因物質の現況と傾向を継続的に把握し、対策効果の検証を行うための資料とする。	温暖化対策担当 自然環境担当	大気環境課	146頁
有害大気汚染物質等モニタリング調査事業(有害大気汚染物質調査)	有害大気汚染物質による健康被害を未然に防止するために、大気汚染の状況を監視するモニタリングを実施する。	大気環境担当	大気環境課	146頁
有害大気汚染物質等モニタリング調査事業(酸性雨調査)	大気降下物による汚染の実態とその影響を把握し、被害の未然防止を図るための基礎資料を得ることを目的とする。	大気環境担当	大気環境課	147頁
有害大気汚染物質等モニタリング調査事業(炭化水素類組成調査)	近年増加傾向である光化学オキシダントの発生要因を精査するために、原因物質である炭化水素類の地点別、時間帯別の成分濃度を把握する。	大気環境担当	大気環境課	147頁

事業名	目的	担当	関係課	概要
大気汚染常時監視運営管理事業	埼玉県内のPM2.5による汚染実態を把握するとともに、その成分も分析することで、PM2.5の濃度低減を図るための基礎的なデータを得る。	大気環境担当	大気環境課	148頁
NO _x ・PM総量削減調査事業	関東広域におけるPM2.5の成分を把握し、対策に役立てるとともに、交差点近傍のNO ₂ 、NO _x 濃度を測定し、実態を把握する。	大気環境担当	大気環境課	148頁
工場・事業場大気規制事業	工場、事業場から排出されるばい煙等による大気汚染を防止するため、固定発生源における窒素酸化物等の測定を行う。また、大気関係公害の苦情処理に必要な調査及び指導等を行う。	大気環境担当	大気環境課	149頁
大気環境石綿(アスベスト)対策事業	石綿による環境汚染を防止し、県民の健康を保護するとともに、生活環境を保全するための調査を行う。	大気環境担当	大気環境課	149頁
揮発性有機化合物対策事業	光化学オキシダントによる健康被害を防止するために、原因物質である揮発性有機化合物(VOC)の大気への排出状況を把握し、排出削減のための事業者指導を行う。	大気環境担当	大気環境課	150頁
騒音・振動・悪臭防止対策事業	騒音、振動、悪臭に関する規制事務の適正な執行を図るため、苦情処理に必要な指導及び調査を実施する。	大気環境担当 土壌・地下水・地盤担当	水環境課	150頁
化学物質環境実態調査事業	一般環境中に残留する化学物質の早期発見及びその濃度レベルを把握する。	大気環境担当 水環境担当 化学物質担当	大気環境課 (環境省委託)	151頁
大気汚染常時監視運営管理事業(光化学オキシダント植物影響調査)	県内における光化学オキシダント(主としてオゾン)による植物被害の発生状況を把握するため、オゾンの指標植物であるアサガオを用いて、その被害の県内分布等を調査する。	自然環境担当	大気環境課	151頁
希少野生生物保護事業	「県内希少野生動植物種」に指定されているソボツチスガリ(ハチ目)及びイモリ(両生類)について、既に策定された保護管理計画に従い、生息地の継続的なモニタリング調査を実施する。また、ミヤマスカシユリ、サワトラノオ、デンジソウ等について、個体の維持・増殖及び危険分散を行う。	自然環境担当 温暖化対策担当	みどり自然課	152頁
野生生物保護事業	野生生物保護に資するため、野生生物に関する各種情報をGISデータベースとして整備する。また、奥秩父雁坂峠付近の亜高山帯森林において気象観測を行うとともに、現在進行しているシカの食害の状況を経年的に調査・把握する。	自然環境担当	みどり自然課	152頁
元小山川水環境改善活動に係る魚類調査	元小山川において、河川生態系の現況を確認するため、魚類等の採捕調査により生息状況を把握する。	自然環境担当	本庄県土整備事務所	153頁

事業名	目的	担当	関係課	概要
産業廃棄物排出事業者指導事業	最終処分場の埋立作業時及び埋立終了後における監視指導を強化し、廃棄物の適正処理・管理の推進並びに生活環境の保全に資する。また、家屋解体現場及び産業廃棄物中間処理施設等における廃棄物中のアスベスト分析を行い、行政指導の支援を行う。	資源循環・廃棄物担当	産業廃棄物指導課	153頁
廃棄物の山の撤去・環境保全対策事業	廃棄物の山が周辺に与える支障の有無について評価する。また、廃棄物の山の撤去等に必要な調査を実施するとともに周辺に影響を与える場合の支障軽減対策を行う。	資源循環・廃棄物担当	産業廃棄物指導課	154頁
廃棄物不法投棄特別監視対策事業	不法投棄された廃棄物の検査を実施し、生活環境への影響を評価するとともに支障を軽減・除去する。	資源循環・廃棄物担当	産業廃棄物指導課	154頁
廃棄物処理施設検査監視指導事業	一般廃棄物処理施設（最終処分場及び焼却施設）の立入検査で採取した試料を分析するとともに、処理事業所等に対して現場調査を含む技術的なコンサルティングを行う。	資源循環・廃棄物担当	資源循環推進課	155頁
資源リサイクル拠点環境調査研究事業（埋立処分①イオン類、埋立処分②閉鎖）	埼玉県環境整備センターの浸出水、処理水、地下水の水質検査並びに埋立地ガスの検査により、適正な維持管理に資する。	資源循環・廃棄物担当	資源循環推進課	155頁
循環型社会づくり推進事業	一般廃棄物不燃ごみ及び粗大ごみの適正処理について検討する。	資源循環・廃棄物担当	資源循環推進課	156頁
新河岸川産業廃棄物処理対策事業	有機溶剤等を含む廃棄物が不法投棄された新河岸川河川敷で実施されている処理対策を支援する。	資源循環・廃棄物担当	河川砂防課	156頁
ダイオキシン類大気関係対策事業	ダイオキシン類による環境汚染の防止を図るため、ダイオキシン類対策特別措置法及び県生活環境保全条例に基く立入検査等に伴って採取した排ガス、ばいじん等の検査を実施する。	化学物質担当	大気環境課	157頁
工場・事業場水質規制事業（ダイオキシン類）	ダイオキシン類対策特別措置法等に基づき、工場・事業場への立入検査等を実施し、排水規制の徹底を図る。	化学物質担当	水環境課	157頁
土壌・地下水汚染対策事業（土壌のダイオキシン類調査）	大気に係るダイオキシン類の特定施設からの影響を監視するため、発生源周辺の土壌汚染状況調査、汚染の恐れがあると判断される土地に対する立入検査を行い、県民の健康被害の防止を図る。	化学物質担当	水環境課	158頁
水質監視事業（ダイオキシン類汚染対策調査）	河川底質に存在しているダイオキシン類が、河川水質等に及ぼす影響を監視する。	化学物質担当	水環境課	158頁
資源リサイクル拠点環境調査研究事業（ダイオキシン類調査（大気））	資源循環工場の運営協定に基づき、埼玉県環境整備センター、資源循環工場周辺地域の環境調査を継続的に実施する。	化学物質担当	資源循環推進課	159頁
化学物質総合対策推進事業（工業団地等周辺環境調査）	化学物質排出把握管理促進法対象化学物質のうち、大気への排出量の多い化学物質を中心に、事業場周辺における大気環境濃度の実態を把握する。	化学物質担当	大気環境課	159頁

事業名	目的	担当	関係課	概要
野生動物レスキュー事業	野鳥の不審死の原因を推定するため、胃内容物等に含まれる農薬等化学物質を分析検査する。	化学物質担当	みどり自然課	160頁
水質監視事業(公共用水域)	県内主要河川の環境基準達成状況を把握し、人の健康の保護と生活環境の保全を図る。	水環境担当 土壌・地下水・ 地盤担当	水環境課	160頁
工場・事業場水質規制事業	工場・事業場の排水基準の遵守及び公共用水域の保全を目的に、水質汚濁防止法及び県生活環境保全条例に基づき、環境管理事務所が実施した立ち入り検査等による採取検体の分析(クロスチェック)を行い、水質汚濁の防止を図る。	水環境担当	水環境課	161頁
水質事故対策事業	油類の流出、魚類の浮上・へい死等の異常水質事故の発生に際し、迅速に発生源及び原因物質を究明して適切な措置を講じることにより、汚染の拡大を防止し、県民の健康被害の防止及び水質の保全を図る。	水環境担当	水環境課	161頁
共助による川の再生事業	五感による河川環境指標の導入や川の国応援団サポートデスク運営事業、川の国アドバイザー活動事業などにより、川の国応援団を中心とした民と民との連携強化を図り、共助による川の再生を推進する。	水環境担当	水環境課	162頁
水質監視事業(地下水常時監視)	地下水の水質調査を行うことで、環境基準の達成状況や地下水の汚染地域を把握し、事業所等への指導と併せ、県民の健康の保護と生活環境の保全を図る。	土壌・地下水・ 地盤担当 水環境担当	水環境課	162頁
土壌・地下水汚染対策事業	汚染が懸念される土壌・地下水等の調査・分析により、汚染状況の把握及び汚染機構の解明を行い、土壌・地下水汚染対策の推進を図る。	土壌・地下水・ 地盤担当	水環境課	163頁
放射線測定体制強化事業	福島第一原子力発電所事故による放射線の影響について、いまだに多くの県民が不安を抱いていることから、一般環境における放射線の監視・測定体制を整備し、県民の安心・安全を確保する。	環境放射能担当	環境政策課	163頁
水ビジネス海外展開チャレンジ事業	水環境に対する国際貢献の実現及び県内環境ビジネスの振興を図るため、官民が連携した水ビジネスの海外展開に向けた取組を実現する。	研究企画室 水環境担当	環境政策課	164頁

5.3 他研究機関との連携

埼玉県が直面している環境に関する諸問題へ対応するための試験研究や環境面での国際貢献など、環境科学国際センターが環境に関する総合的中核機関として機能するためには、当センターにおける研究活動の高度化、活性化をより一層図っていく必要がある。そこで、大学や企業等との共同研究や研究協力を積極的に推進するとともに、他の研究機関から客員研究員を迎えて研究交流や情報交換を行っている。

また、早稲田大学理工学術院総合研究所と研究交流協定(平成12年6月)、埼玉大学と教育研究の連携・協力に関する覚書(平成14年3月)及び立正大学環境科学研究所と研究交流協定(平成20年5月)を締結し、大学と共同研究、人的交流等の連携を推進している。

平成25年度は、国内外で46課題を実施した。

(1) 国内の大学・民間企業等との共同研究・研究協力

共同研究・研究協力一覧

(38課題)

連携先	研究課題名及び概要	担当者
(一財)日本自動車研究所	「大気環境の改善とバイオマス由来粒子の組成に関する調査研究」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.39)、7.2外部資金研究概要(p.143)	坂本和彦 佐坂公規
法政大学、 東京都環境科学研究所、 長野県環境保全研究所	「温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究(埼玉県における温暖化の農業等に与える影響把握手法の開発と評価に関する研究)」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.34)、7.2外部資金研究概要(p.127)	嶋田知英 米倉哲志 増富祐司 三輪誠
(独)農業環境技術研究所、 (独)農業・食品産業技術 総合研究機構果樹研究所	「温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究(不確実性を考慮した農業影響および適応策の評価)」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.34)、7.2外部資金研究概要(p.127)	増富祐司 三輪誠 米倉哲志
北海道大学、 北海道立総合研究機構 環境科学センター、 他	「広域測定網における大気汚染測定フィルターの再利用による光学的黒色炭素粒子の測定」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.36)、7.2外部資金研究概要(p.135)	松本利恵
早稲田大学理工学術院	「サブミクロン粒子PM1の都心と郊外との比較と特性解明」 PM2.5の多くはPM1として存在すると考えられ、一方で、粗大粒子の影響をほとんど受けないと考えられる。本研究は、これまで早稲田大学敷地内で実施してきた粒子状物質捕集と性状の比較を、更に発展させ、郊外と都心とのPM1の詳細な比較を行う。	米持真一
早稲田大学理工学術院	「工場内で利用可能なVOC局所対策手法の開発に関する研究」 中小企業における自主的な取組によるVOC排出抑制を支援するため、特に使用済みウエス入れを対象として、VOC排出を抑えるため、VOCの動態を定量化するとともに、容器外への漏洩を極力抑制するための、新しいウエス入れの開発を試みる。	米持真一
吉野電化工業(株)	「局所発生源を対象としたVOC処理システムの開発」 光触媒の長所を生かした中小企業向けのVOC処理装置を開発するため、独自に開発した立体格子構造を持つ担体に光触媒を担持させる手法および処理装置試作器の作製について検討を行う。	米持真一
日本ゴア(株)	「PTFE素材を用いたPM2.5捕集性能の評価に関する研究」 日本ゴア(株)で開発した、PTFEを素材とするフィルム状材料を対象とし、実大気を用いたPM2.5捕集実験および詳細な性能評価に関する技術的検討を行う。	米持真一
早稲田大学理工学術院、 (公財)労働科学研究所	「作業実態に応じた効果的なVOC発散防止・抑制方法に関する調査研究」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.36)、7.2外部資金研究概要(p.133)	米持真一 梅沢夏実

連 携 先	研究課題名及び概要	担当者
(独)国立環境研究所	「関東における粒子状物質削減のための動態解明」(Ⅰ型共同研究) 関東域における粒子状物質の大気動態の解明を目的として、大気観測を行い、PMの動態、特にSOAの移流や反応についての観測データを収集し、シミュレーションなどを介して、関東域におけるPMの空間分布を把握する。	長谷川就一
(独)国立環境研究所、 大阪市立環境科学研究所 他	「PM2.5の短期的／長期的環境基準超過をもたらす汚染機構の解明」 高濃度汚染時のPM2.5観測とデータベース化、レセプターモデルによる発生源種別寄与評価、化学輸送モデルによる地域別寄与評価、間欠測定データと長期平均値の関係解析、PM2.5の新たな分析項目や手法の検討などを行うことで、PM2.5の短期および長期基準超過をもたらす汚染機構を解明し、環境基準達成への対策に資する知見を得る。	長谷川就一
埼玉大学	「機能的光断面画像法による植物の無侵襲環境ストレスモニタ法の開発」 (再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.36)、7.2外部資金研究概要(p.134)	米倉哲志
(独)国立環境研究所他	「植物のストレス診断と環境モニタリングに関する研究」(Ⅱ型共同研究) 野外における植物のストレス診断及び植物を用いた環境モニタリングを行うための分子的メカニズムに基づく手法の開発・確立を目指す。特に、植物のオゾンストレスや放射線影響を指標植物の遺伝子発現解析等によって診断する手法を確立するとともに、市民の理解を深めるために研究結果の普及を図る。	三輪誠
(独)国立環境研究所、 日本工業大学、長崎大学	「アスベスト含有建材の選別手法確立と再生砕石の安全性評価に関する研究」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.34)、7.2外部資金研究概要(p.128)	渡辺洋一 川寄幹生 磯部友護 鈴木和将
高知大学、 北海道大学大学院、 (独)国立環境研究所、 岡山大学大学院、 京都大学大学院、 鳥取大学大学院、 愛媛大学	「気候変動を考慮した農業地域の面的水管理・カスケード型資源循環システムの構築」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.38)、7.2外部資金研究概要(p.140)	長谷隆仁
(独)国立環境研究所、 福岡大学、京都大学、埼 玉大学、日本工業大学、 神奈川県環境科学センタ ー、千葉県環境研究セン ター	「最終処分場機能の健全性の検査手法と回復技術に関する研究」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.34)、7.2外部資金研究概要(p.129)	磯部友護
北海道大学、 日本工業大学、 (独)国立環境研究所、 長崎大学、東急建設(株)	「中間処理残さ主体埋立地に対応した安定化促進技術の開発」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.34)、7.2外部資金研究概要(p.129)	磯部友護 鈴木和将 川寄幹生
(公財)日本産業廃棄物処 理振興センター、北海道 大学、日本工業大学、 桜美林大学、環境資源シ ステム総合研究所、 富山県立大学	「産業廃棄物マニフェスト情報の信頼性の確保と多面的活用策の検討」 (再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.35)、7.2外部資金研究概要(p.130)	渡辺洋一
岡山大学、名古屋大学	「地域エネルギー供給のための廃棄物系バイオマスのガス化／多段触媒 変換プロセスの開発」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.35)、7.2外部資金研究概要(p.130)	鈴木和将

連 携 先	研究課題名及び概要	担当者
(独)国立環境研究所 東京都環境科学研究所他	「国内における化審法関連物質の排出源及び動態の解明」(Ⅱ型共同研究) 全国の地方環境研究所が、国内で対策が進んでいないPOPs候補物質や有機フッ素化合物について共同調査等を行い、排出源及び環境動態等の解明を進める。	茂木守 野尻喜好
静岡県立大学	「廃棄物焼却施設におけるハロゲン化多環芳香族炭化水素類の生成機構解析とリスクベース管理手法の提案」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.35)、7.2外部資金研究概要(p.132)	堀井勇一
名城大学	「新奇ハロゲン芳香族群の環境汚染と生態影響評価」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.36)、7.2外部資金研究概要(p.136)	堀井勇一
(独)産業技術総合研究所	「揮発性メチルシロキサンの高精度分析法開発に関する研究」 新規環境汚染物質の揮発性メチルシロキサンについて、環境中濃度を高感度・高精度で評価できる分析法を開発し、その分析法の標準規格化を目指す。	堀井勇一
(株)島津製作所	「環境水のTOC計測手法に関する研究」 河川や湖沼等の環境水のTOC計測に関して、試料の前処理及び分析装置の最適化に関して検討し、的確な分析手法を確立する。	高橋基之 池田和弘
滋賀県琵琶湖環境科学研究センター、龍谷大学、東レテクノ(株)	「湖沼水質形成における沿岸帯の機能とその影響因子の評価(浅い富栄養化池沼の好気、嫌気条件におけるシードバンクのポテンシャルの把握)」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.35)、7.2外部資金研究概要(p.132)	田中仁志
滋賀県琵琶湖環境科学研究センター、神戸大学、滋賀県立大学、兵庫県立大学	「湖沼に蓄積する難分解性溶存有機物の藻類影響評価試験法の開発」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.37)、7.2外部資金研究概要(p.137)	田中仁志
富山大学、東北大学、水見市教育委員会、(独)国立環境研究所	「稀少淡水二枚貝のイシガイ類保全のための人工増殖に向けた餌資源の解明」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.37)、7.2外部資金研究概要(p.137)	田中仁志
早稲田大学理工学術院	「魚類生息環境評価手法の開発と適用に関する包括的研究」 淡水魚を主な対象として、魚類生息環境評価手法のライフサイクルリスクアセスメントについて、主要な魚種や実河川の評価に基づく精緻化を行う。本年度は、熊谷市内の河川・水路を中心にフィールド調査を実施した。	木持謙
日本大学	「下水処理プロセスにおけるN ₂ O生成ポテンシャルの評価」(再掲) 5.2.1自主研究(p.33)、7.1自主研究概要(p.121)	見島伊織
埼玉県下水道局、(公財)埼玉県下水道公社	「埼玉県内の流域下水道におけるN ₂ O発生量の把握と発生抑制方法の基礎的検討」 埼玉県内の流域下水道を対象として、水処理プロセスから排出されるN ₂ Oの発生量を算定し、N ₂ Oの発生量と他の水質との解析やモデルを使った解析を行い、N ₂ O発生抑制方法について検討を行う。	見島伊織 柿本貴志
(株)環境測定サービス、茨城大学、茨城県工業技術センター	「水質解析による水道管内面劣化診断手法の開発」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.39)、7.2外部資金研究概要(p.142)	見島伊織
(独)産業技術総合研究所	「アレイの指向性制御によるFocused微動探査法の開発」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.37)、7.2外部資金研究概要(p.138)	白石英孝
東京工業大学	「環境音場の等価音源同定と高精度音圧分布推定法の開発」 複雑な特性の騒音源に起因した環境音場について、その騒音源の位置の同定と等価音源モデルの同定を行い、その同定結果と音場モデル(境界要素法に基づくモデル化)を用いて計測不可能な環境音場内の任意の位置の音圧を精度良く推定して音圧分布を求める新しい手法を開発する。	白石英孝

連 携 先	研究課題名及び概要	担当者
埼玉大学	「埼玉県における地下水特性の総合評価とその応用に関する研究」(再掲) 5.2.1自主研究(p.33)、7.1自主研究概要(p.123)	八戸昭一 石山高 濱元栄起 白石英孝
埼玉大学	「有機物を含有した自然地層中に含まれる重金属類の存在状態及びその溶出特性に関する研究」 埼玉県北部の加須低地において掘削されたボーリングコアを対象として重金属類の存在形態を把握することにより、自然地層の堆積環境と重金属類の溶出特性を考察する。	八戸昭一 石山高 濱元栄起
(独)産業技術総合研究所	「地質地盤インフォメーションシステムによる地域環境特性の解析」 地質地盤インフォメーションシステムに搭載されたボーリングデータを使用して埼玉県内の地質構造を評価し、当該地域固有の地域環境特性を解析する。	八戸昭一
(独)産業技術総合研究所、秋田大学	「埼玉県平野部の地下水環境に関する研究」 埼玉県平野部に設置されている地下水位・地盤沈下観測井ならびに各種水源井を対象として地下水温の観測・長期モニタリングを行うとともに、地下水試料を採取して主要溶存成分ならびに環境同位体を測定する。	八戸昭一 濱元栄起
東京大学地震研究所	「地下熱環境調査のための地下温度計測と長期温度モニタリング」 温暖化による地下熱環境の変化の調査を行い、低温地熱資源利用の推進に役立つ基礎データの取得を行うとともに、地球科学的研究のために深部の地下温度構造等の推定を行う。	白石英孝 八戸昭一 石山高 濱元栄起

(2) 国際共同研究

(8課題)

事業名・期間・連携先	研究課題名及び概要	担当者
(独) 科学技術振興機構 地球規模課題対応国際科学技術協力事業(SATREPS)(平成22~27年度) 研究代表:愛媛大学 その他連携先:(独)産業技術総合研究所、大阪府立大学、東京大学、(独)国立環境研究所、三栄ハウス(株)、(一社)海外環境協力センター、(株)数理計画、メテオリサーチ(株) 相手国連携先:メキシコ・国立環境・気候変動局	「オゾン、VOCs、PM2.5生成機構の解明と対策シナリオ提言共同研究プロジェクト」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.38)、7.2外部資金研究概要(p.140)	長谷川就一
(独) 日本学術振興会 科学研究費助成事業(平成24~26年度) 相手国連携先:中国・上海大学、中国環境科学研究院	「磁気分離法を利用した微小粒子中金属の化合形態の解明」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.36)、7.2外部資金研究概要(p.133)	米持真一 梅沢夏実 王効挙
韓国済州綠色環境支援センター研究基金(平成24~25年度) 相手国連携先:韓国済州大学校	「済州地域における微細粒子の排出減推定のための超微粒子状物質調査」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.39)、7.2外部資金研究概要(p.143)	米持真一 田中仁志 坂本和彦
(独) 日本学術振興会 科学研究費助成事業(平成23~25年度) 相手国連携先:中国・山西農業大学、上海大学、吉林省農業環境資源研究センター	「中国農用地汚染土壌における植物を用いた収益型修復技術の確立」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.36)、7.2外部資金研究概要(p.134)	王効挙 細野繁雄 米持真一 磯部友護

事業名・期間・連携先	研究課題名及び概要	担当者
(独) 日本学術振興会 科学研究費助成事業(平成25～27年度) 相手国連携先: インドネシア国立ガジャマダ大学	「東南アジアにおける水銀利用による環境汚染の回復と持続的産業発展に関する研究」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.36)、7.2外部資金研究概要(p.135)	王効挙
JICA草の根技術協力事業(地域提案型)(平成23～25年度) 相手国連携先: 中国・山西省生態環境研究中心、山西農業大学	「山西省環境技術支援事業」 山西省の農村地域におけるごみの減量、資源化の進展、処分場からの浸出水処理対策を推進し、地域住民の住環境が改善することを実現するために必要なノウハウ・技術の移転を行なう。それにより、廃棄物処理における行政事務担当者や技術者を養成する。	倉田泰人 山崎和美 王効挙 鈴木和将
(独) 科学技術振興機構 地球規模課題対応国際科学技術協力事業(SATREPS)(平成23～27年度) 研究代表: 埼玉大学 その他連携先: 早稲田大学、(独) 産業技術総合研究所 相手国連携先: スリランカ国・ペラデニヤ大学、ルフナ大学、キャンディ基礎研究所、中央環境省、全国廃棄物管理支援センター	「スリランカ廃棄物処分場における地域特性を活かした汚染防止と修復技術の構築」(再掲) 5.2.2外部資金による研究事業(p.38)、7.2外部資金研究概要(p.141)	長森正尚 渡辺洋一 磯部友護
国際貢献事業(平成25～27年度) 相手国連携先: 中国・上海大学	「生活ごみ焼却飛灰の資源化」 中国各地の都市ごみ焼却炉飛灰の資源化を推進するため、無害化処理等を行った試料のダイオキシン類濃度を測定し、その有効性を評価する。	細野繁雄 王効挙 茂木守 大塚宜寿

(3) 大学・大学院からの学生の受入れ

共同研究等の実施に伴い大学・大学院から派遣された学生に研究指導を行った。また、大学からの依頼により実習生を受け入れ、研究員による研究実習を行った。

大学との共同研究、研究協力の実施に伴う学生の受入実績

(受入9名)

所 属	摘 要
埼玉大学大学院理工学研究科 環境制御システムコース 1名	理工学研究科 佐藤勇一 教授
埼玉大学大学院理工学研究科 博士前期課程 1名	地圏科学研究センター 小口千明 准教授
早稲田大学大学院創造理工学研究科 修士課程 1名	理工学術院 名古屋俊士 教授
早稲田大学創造理工学部 2名	
日本大学理工学部土木工学科 4名	理工学部 吉田征史 専任講師

実習生の受入実績

(受入6名)

所 属	実 習 期 間
立正大学地球環境科学部環境システム学科 1名	平成25年8月7日～8月21日
明星大学理工学部総合理工学科環境・生態学系 3名	平成25年8月7日～8月15日
早稲田大学創造理工学部環境資源工学科 2名	平成25年8月6日～8月13日

(4) 客員研究員の招へい

実績と経験を有する研究者を当センター客員研究員として招き、当センターで行っている調査・研究業務に対して研究指導や助言等を依頼した。

埼玉県環境科学国際センター客員研究員名簿

氏名	所属・役職
高橋 潔	(独)国立環境研究所社会環境システム研究センター 主任研究員
大河内 博	早稲田大学理工学術院創造理工学部 教授
高田 啓介	信州大学理学部生物科学科 准教授
大迫 政浩	(独)国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター センター長
中野 武	大阪大学大学院工学研究科 特任教授
藤野 毅	埼玉大学理工学研究科 准教授
山野 誠	東京大学地震研究所 准教授

(5) 研究審査会の開催

当センターが実施する研究課題について、外部有識者で構成する埼玉県環境科学国際センター研究審査会を開催し、当センターの研究に対する審査及び助言を依頼した。

埼玉県環境科学国際センター研究審査会委員名簿

氏名	所属・役職
久保 純子	早稲田大学教育学部 教授
河野 吉久	電力中央研究所 研究アドバイザー
榑原 豊	早稲田大学理工学術院 教授
田中 充	法政大学大学院政策科学研究科・政策科学専攻 教授
畠山 史郎	東京農工大学農学研究院物質循環環境科学部門 教授
原澤 英夫	(独)国立環境研究所 理事(研究担当)

5. 4 学会等における研究発表

5. 4. 1 論文

(31件)

論文名	執筆者	掲載誌	抄録
Atmospheric concentrations of semivolatile bifunctional carbonyl compounds and the contribution from motor vehicles	R. Ortiz ¹⁾ , S. Shimada ¹⁾ , K. Sekiguchi ¹⁾ , Q. Wang ¹⁾ , K. Sakamoto	Asian Journal of Atmospheric Environment, Vol.7, No.3, 152-160 (2013)	165頁
Development of outdoor exposure model of traffic-related air pollution for epidemiologic research in Japan	I. Kanda ²⁾ , T. Ohara ³⁾ , T. Nataami ⁴⁾ , H. Nitta ³⁾ , K. Tamura ³⁾ , S. Hasegawa, M. Shima ⁵⁾ , S. Nakai ⁶⁾ , K. Sakamoto, H. Yokota ⁷⁾	Journal of Exposure Science and Environmental Epidemiology, Vol.23, Issue 5, 487-497 (2013)	165頁
住宅用太陽光発電の設置補助金制度の最適設計～埼玉県市町村を事例として～	白井信雄 ⁸⁾ 、田中充 ⁸⁾ 、増富祐司、嶋田知英、東海明宏 ⁹⁾	計画行政、Vol.36、No.2、49-56 (2013)	165頁
Analysis of summer-time atmospheric transport of fine particulate matter in Northeast Asia	H. Shimadera ¹⁰⁾ , H. Hayami ¹⁰⁾ , Y. Morino ¹⁰⁾ , T. Ohara ³⁾ , S. Chatani ¹¹⁾ , S. Hasegawa, N. Kaneyasu ¹²⁾	Asia-Pacific Journal of Atmospheric Sciences, Vol.49, No.3, 347-360 (2013)	166頁
Black carbon at a roadside site in Beijing: Temporal variations and relationships with carbon monoxide and particle number size distribution	S. Song ¹³⁾ , Y. Wu ¹³⁾ , J. Xu ¹³⁾ , T. Ohara ³⁾ , S. Hasegawa, J. Li ¹³⁾ , L. Yang ¹³⁾ , J. Hao ¹³⁾	Atmospheric Environment, Vol.77, 213-221 (2013)	166頁
2013年1月に中国北京市で採取した高濃度PM _{2.5} 、PM ₁ の特徴	米持真一、陈炫 ¹⁴⁾ 、繆萍萍 ¹⁴⁾ 、呂森林 ¹⁵⁾ 、王効拳、梅沢夏実	大気環境学会誌、Vol.48、No.3、140-144 (2013)	166頁
2011年2月上旬に観測された広域的なPM _{2.5} 高濃度エピソードの要因推定	山神真紀子 ¹⁶⁾ 、佐川竜也 ¹⁷⁾ 、中戸靖子 ¹⁸⁾ 、長田健太郎 ¹⁹⁾ 、米持真一、山本勝彦 ¹⁸⁾ 、山田大介 ²⁰⁾ 、芝和代 ²¹⁾ 、山田克則 ²²⁾ 、菅田誠治 ³⁾ 、大原利真 ³⁾	大気環境学会誌、Vol.48、No.4、196-205 (2013)	167頁
Diurnal and nocturnal behaviour of airborne <i>Cryptomeria japonica</i> pollen grains and the allergenic species in urban atmosphere of Saitama, Japan	Q. Wang ¹⁾ , S. Nakamura ¹⁾ , S. Lu ¹⁵⁾ , D. Nakajima ³⁾ , M. Suzuki ¹⁾ , K. Sekiguchi ¹⁾ , M. Miwa	Asian Journal of Atmospheric Environment, Vol.7, No.2, 65-71 (2013)	167頁
Size-segregated allergenic particles released from airborne <i>Cryptomeria japonica</i> pollen grains during the yellow sand events within the pollen scattering seasons	Q. Wang ¹⁾ , X. Gong ¹⁾ , M. Suzuki ¹⁾ , S. Lu ¹⁵⁾ , K. Sekiguchi ¹⁾ , D. Nakajima ³⁾ , M. Miwa	Asian Journal of Atmospheric Environment, Vol.7, No.4, 191-198 (2013)	167頁
An optical interferometric technique for assessing ozone induced damage and recovery under cumulative exposures for a Japanese rice cultivar	B.L.S. Thilakarathne ¹⁾ , U.M. Rajagopalan ²³⁾ , H. Kadono ¹⁾ , T. Yonekura	SpringerPlus, Vol.3, 89 (2014)	168頁
Study on tolerance and accumulation potential of biofuel crops for phytoremediation of heavy metals	K. Oh, T. Li ²⁴⁾ , H. Cheng ²⁴⁾ , Y. Xie ²⁴⁾ , S. Yonemochi	International Journal of Environmental Science and Development, Vol.4, No.2, 152-156 (2013)	168頁
Photocatalytic degradation kinetics of methyl orange in TiO ₂ -SiO ₂ -NiFe ₂ O ₄ aqueous suspensions	L. Yan ¹⁵⁾ , Y. Cheng ¹⁵⁾ , S. Yuan ¹⁵⁾ , X. Yan ¹⁵⁾ , X. Hu ¹⁵⁾ , K. Oh	Research on Chemical Intermediates, Vol.39, No.4, 1673-1684 (2013)	168頁

論文名	執筆者	掲載誌	抄録
Development of profitable phytoremediation of contaminated soils with biofuel crops	K. Oh, T. Li ²⁴ , H. Cheng ²⁴ , X. Hu ¹⁵ , C. He ¹⁵ , L. Yan ¹⁵ , S. Yonemochi	Journal of Environmental Protection, Vol.4, No.4A, 58-64 (2013)	169頁
Effect of three different crops treated with different fertilizers on soil enzyme activity and the residual Cd content in the Cd contaminated soil	T. Li ²⁴ , H. Cheng ²⁴ , K. Oh, J. Yang ²⁴ , Z. Guo ²⁴	Journal of Shanxi Agricultural University (Natural Science Edition), Vol.33, No.6, 467-470 (2013)	169頁
葉に発現する可視被害の程度に基づいたホウレンソウのオゾン感受性評価	印南ゆかり ²⁵ 、三輪誠	大気環境学会誌、Vol.49、No.1、1-7 (2014)	169頁
一般廃棄物の焼却における温室効果ガス排出に関する研究	倉田泰人	全国環境研会誌、Vol.38、No.3、127-133 (2013)	170頁
不適正処理廃棄物の山を対象とした改善対策による放出ガス抑制効果	長森正尚、磯部友護、渡辺洋一	廃棄物資源循環学会論文誌、Vol.24、No.3、29-39 (2013)	170頁
Characteristics of dioxins content in fly ash from municipal solid waste incinerators in China	Y. Pan ¹⁵ , L. Yang ¹⁵ , J. Zhou ¹⁵ , J. Liu ¹⁵ , G. Qian ¹⁵ , N. Ohtsuka, M. Motegi, K. Oh, S. Hosono	Chemosphere, Vol.92, Issue 7, 765-771 (2013)	170頁
埼玉県における河川水のペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)、ペルフルオロオクタノ酸(PFOA)初期調査	茂木守、野尻喜好、細野繁雄、杉崎三男	全国環境研会誌、Vol.38、No.2、60-66 (2013)	171頁
Does wet precipitation represent local and regional atmospheric transportation by perfluorinated alkyl substances?	S. Taniyasu ¹² , N. Yamashita ¹² , H.B. Moon ²⁶ , K.Y. Kwok ²⁷ , P.K.S. Lam ²⁷ , Y. Horii, G. Petrick ²⁸ , K. Kannan ²⁹	Environment International, Vol.55, 25-32 (2013)	171頁
Airborne PM _{2.5} /PM ₁₀ -associated chlorinated polycyclic aromatic hydrocarbons and their parent compounds in a suburban area in Shanghai, China	J. Ma ¹⁵ , Z. Chen ¹⁵ , M. Wu ¹⁵ , J. Feng ¹⁵ , Y. Horii, T. Ohura ³⁰ , K. Kannan ^{29/31}	Environmental Science & Technology, Vol.47, Issue 14, 7615-7623 (2013)	171頁
Diurnal variability of chlorinated polycyclic aromatic hydrocarbons in urban air, Japan	T. Ohura ³⁰ , Y. Horii, M. Kojima ³² , Y. Kamiya ³⁰	Atmospheric Environment, Vol.81, 84-91 (2013)	172頁
Effects of land-use type and nitrogen addition on nitrous oxide and carbon dioxide production potentials in Japanese Andosols	Y. Kong ³³ , M. Watanabe ³ , H. Nagano ³⁴ , K. Watanabe, M. Yashima ³³ , K. Inubushi ³³	Soil Science and Plant Nutrition, Vol.59, Issue 5, 790-799 (2013)	172頁
Effect of antibiotics on redox transformations of arsenic and diversity of arsenite-oxidizing bacteria in sediment microbial communities	S. Yamamura ³ , K. Watanabe, W. Suda ³⁵ , S. Tsuboi ³ , M. Watanabe ³	Environmental Science & Technology, Vol.48, Issue 1, 350-357 (2014)	172頁
Physiological and genetic basis for self-aggregation of a thermophilic hydrogenotrophic methanogen, <i>Methanothermobacter</i> strain CaT2	T. Kosaka ³⁶ , H. Toh ³⁷ , A. Fujiyama ³⁸ , Y. Sakaki ³⁹ , K. Watanabe, X.Y. Meng ¹² , S. Hanada ¹² , A. Toyoda ^{38/39}	Environmental Microbiology Reports, DOI: 10.1111/1758-2229.12128 (2013)	173頁
集水域の植生に依存して形成されるため池水質の違い 落葉広葉樹または常緑針葉樹の優占度が異なるため池での比較から	田中仁志、木本達也 ⁴⁰ 、木持謙、須藤隆一 ⁴¹	日本水処理生物学会誌、Vol.49、No.3、75-84 (2013)	173頁

論文名	執筆者	掲載誌	抄録
生態系モデルによる沈水植物アレロパシーの微細藻類量・群集構造に及ぼす影響解析	武田文彦 ⁴²⁾ 、中野和典 ⁴²⁾ 、相川良雄 ⁴¹⁾ 、西村修 ⁴¹⁾ 、島多義彦 ⁴³⁾ 、袋昭太 ⁴³⁾ 、仲沢武志 ⁴³⁾ 、田中仁志、林紀男 ⁴⁴⁾ 、稲森悠平 ⁴⁵⁾	水環境学会誌、Vol.37、No.2、15-28 (2014)	173頁
琵琶湖北湖東岸における湖岸形状と泥質化の関係	奥村浩気 ⁴⁶⁾ 、岸本直之 ⁴⁶⁾ 、一瀬諭 ⁴⁷⁾ 、馬場大哉 ⁴⁸⁾ 、田中仁志	水環境学会誌、Vol.37、No.2、45-53 (2014)	174頁
A synthesis of heat flow determinations and thermal modeling along the Nankai Trough, Japan	R. Harris ⁴⁹⁾ 、M. Yamano ⁵⁰⁾ 、M. Kinoshita ⁵¹⁾ 、G. Spinelli ⁵²⁾ 、H. Hamamoto、J. Ashi ⁵³⁾	Journal of Geophysical Research: Solid Earth, Vol.118, Issue 6, 2687-2702 (2013)	174頁
大阪都心部における地下温暖化の実態	有本弘孝 ⁵⁴⁾ 、北岡豪一 ⁵⁵⁾ 、谷口真人 ⁵⁶⁾ 、濱元栄起	地盤工学会関西支部「地下水地盤環境・防災・計測技術に関するシンポジウム」論文集、53-58 (2013)	174頁
大阪都心部における地下温暖化履歴の推定	濱元栄起、有本弘孝 ⁵⁴⁾ 、北岡豪一 ⁵⁵⁾ 、谷口真人 ⁵⁶⁾	地盤工学会関西支部「地下水地盤環境・防災・計測技術に関するシンポジウム」論文集、59-64 (2013)	175頁

(注) 執筆者の所属機関名は218ページに一覧にした。

5. 4. 2 国際学会プロシーディング

(23件)

論文名	執筆者	会議録	抄録
Comparison of size-resolved chemical composition in ambient aerosol particles collected by atmospheric-pressure classification instrument and low-pressure classification instrument	K. Shibata ⁵⁷⁾ 、K. Enya ⁵⁷⁾ 、K. Sakamoto	Proceedings of the 8th Asian Aerosol Conference, 34 (2013) (3-5, Dec. 2013, Sydney, Australia)	176頁
Development of a global climate-crop coupled model for paddy rice	Y. Masutomi	Proceedings of the Impact World 2013, International Conference on Climate Change Effects, 522-526 (2013) (28 May 2013, Potsdam, Germany)	176頁
Groundwater level fluctuation in an open solid waste dumpsite: A case study in Udapalatha PS, Central Province, Sri Lanka	M.I.M. Mowjood ⁵⁸⁾ 、P. Abhayawardana ⁵⁸⁾ 、M.G.P. Bandara ⁵⁸⁾ 、S.M.J. Hettiarachchi ⁵⁸⁾ 、T. Koide ¹⁾ 、G.B.B. Herath ⁵⁸⁾ 、M. Nagamori、K. Kawamoto ¹⁾	Proceedings of the International Symposium on Advances in Civil and Environmental Engineering Practices for Sustainable Development, 202-209 (2013) (27 Sep. 2013, Galle, Sri Lanka)	176頁
Spatial variation in landfill gas composition in Sri Lankan landfills	T. Koide ¹⁾ 、M. Nagamori、N.K. Wijewardane ⁵⁸⁾ 、Y. Watanabe、Y. Isobe、G.B.B. Herath ⁵⁸⁾ 、M.I.M. Mowjood ⁵⁸⁾ 、K. Kawamoto ¹⁾	Proceedings of the 14th International Waste Management and Landfill Symposium (Sardinia 2013), 129 (2013) (30 Sep.-3 Oct. 2013, Cagliari, Italy)	177頁
Characterization of major and trace components in gases generated from municipal solid waste landfills in Sri Lanka	M. Nagamori、Y. Isobe、Y. Watanabe、N.K. Wijewardane ⁵⁸⁾ 、M.I.M. Mowjood ⁵⁸⁾ 、T. Koide ¹⁾ 、K. Kawamoto ¹⁾	Proceedings of the 14th International Waste Management and Landfill Symposium (Sardinia 2013), 162 (2013) (30 Sep.-3 Oct. 2013, Cagliari, Italy)	177頁

論文名	執筆者	会議録	抄録
Clustering open dumpsites in Sri Lanka based on waste characteristics	N.K. Wijewardane ⁵⁸⁾ , T. Koide ¹⁾ , M.I.M. Mowjood ⁵⁸⁾ , M. Nagamori, K. Kawamoto ¹⁾ , G.B.B. Herath ⁵⁸⁾	Proceedings of the 14th International Waste Management and Landfill Symposium (Sardinia 2013), 150 (2013) (3 Oct. 2013, Cagliari, Italy)	177頁
A study on the proper treatment of incombustible municipal solid waste	M. Kawasaki, Y. Isobe, K. Suzuki, Y. Watanabe	Proceedings of the 3R International Scientific Conference on Material Cycles and Waste Management, A-122 (2014) (10 March 2014, Kyoto, Japan)	178頁
Formation of chlorinated polycyclic aromatic hydrocarbons in combustion of polyvinylidene chloride	Y. Miyake ³²⁾ , Q. Wang ³²⁾ , T. Amagai ³²⁾ , Y. Horii	Organohalogen Compounds, Vol.75, 31-34 (2013) 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (2013) (26 Aug. 2013, Daegu, Korea)	178頁
Profiles and distribution of halogenated polycyclic aromatic hydrocarbons from waste incinerators	Q. Wang ³²⁾ , Y. Miyake ³²⁾ , T. Amagai ³²⁾ , Y. Horii, K. Nojiri, N. Ohtsuka	Organohalogen Compounds, Vol.75, 27-30 (2013) 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (2013) (26 Aug. 2013, Daegu, Korea)	178頁
Environmental degradation of perfluorocarboxylic acids (PFCAs) and perfluorosulfonic acids (PFSAs) – Are these real persistent organic pollutants?	E. Yamazaki ¹²⁾ , S. Taniyasu ¹²⁾ , N. Yamashita ¹²⁾ , N. Hanari ¹²⁾ , Y. Horii, K. Kannan ²⁹⁾ , J. Falandysz ⁵⁹⁾	Organohalogen Compounds, Vol.75, 296-300 (2013) 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (2013) (27 Aug. 2013, Daegu, Korea)	179頁
Biodegradation of fluorinated compounds in river water/sediment system by a shake-flask batch test	M. Motegi, K. Nojiri, Y. Horii	Organohalogen Compounds, Vol.75, 301-304 (2013) 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (2013) (27 Aug. 2013, Daegu, Korea)	179頁
Concentration profiles of volatile methylsiloxanes in river water, sediment and fish samples from Tokyo Bay watershed	Y. Horii, K. Minomo, M. Motegi, N. Ohtsuka, K. Nojiri	Organohalogen Compounds, Vol.75, 1291-1294 (2013) 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (2013) (27 Aug. 2013, Daegu, Korea)	179頁
Application of the constellation graphical method to dioxin data	K. Minomo, N. Ohtsuka, Y. Horii	Organohalogen Compounds, Vol.75, 484-487 (2013) 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (2013) (29 Aug. 2013, Daegu, Korea)	180頁
Study on application of phytoremediation technology in management and remediation of contaminated soils	K. Oh, T. Cao ⁶⁰⁾ , T. Li ²⁴⁾ , H. Cheng ²⁴⁾	Abstract of the 2013 4th International Conference on Environmental Engineering and Applications, E30010 (2013) (25 Aug. 2013, Singapore, Singapore)	180頁

論文名	執筆者	会議録	抄録
Effect of humic acid and bacterial manure on distribution of heavy metals in different organs of maize	T. Li ²⁴⁾ , H. Cheng ²⁴⁾ , K. Oh, S. Hosono	Abstract of the 2013 3rd International Environment Science and Biotechnology, G3009 (2013) (30 Dec. 2013, Kuala Lumpur, Malaysia)	180頁
Method development of cyclic and linear volatile methylsiloxanes in sediment and fish samples	Y. Horii, K. Minomo	Abstract of the 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, S4006 (2013) (27 Aug. 2013, Daegu, Korea)	181頁
Evaluation of toxic equivalents for halogenated polyaromatic hydrocarbons in waste incinerators, Japan	Y. Horii, K. Minomo, N. Ohtsuka, K. Nojiri, T. Ohura ³⁰⁾ , Y. Miyake ³²⁾	Abstract of the 33rd International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants, P-0210 (2013) (29 Aug. 2013, Daegu, Korea)	181頁
A study on photodegradation of perfluoro carboxylic acids and perfluoro sulfonic acids in the ambient environment	E. Yamazaki ¹²⁾ , S. Taniyasu ¹²⁾ , N. Yamashita ¹²⁾ , N. Hanari ¹²⁾ , Y. Horii, K. Kannan ²⁹⁾ , J. Falandysz ⁵⁹⁾	Abstract of the X International Scientific-Technical Conference (2013) (27 Sep. 2013, Warsaw, Poland)	181頁
Ecological niche separation between ammonia-oxidizing archaea and bacteria in Japanese forest soils	K. Watanabe, M. Watanabe ³⁾ , T. Nishikiori ³⁾ , M. Koshikawa ³⁾ , C. Tada ⁴¹⁾ , K. Seiwa ⁴¹⁾ , S. Hayashi ³⁾	Abstract of the 3rd International Conference on Nitrification, 61 (2013) (3 Sep. 2013, Tokyo, Japan)	182頁
Characteristics of nitrous oxide emission and behavior of nitrifying bacteria in a full scale wastewater treatment plant	I. Mishima, Y. Yoshida ⁴²⁾ , M. Fujita ⁶¹⁾	Abstract of the 3rd International Conference on Nitrification, 84 (2013) (3 Sep. 2013, Tokyo, Japan)	182頁
Effects of house vibration on community response to ground transportation noise	S. Yokoshima ⁶²⁾ , Y. Matsumoto ¹⁾ , H. Shiraishi, A. Ota ⁶⁾ , A. Tamura ⁶⁾	Abstract of the Inter-Noise 2013, 132-133 (2013) (16 Sep. 2013, Innsbruck, Austria)	182頁
Detection properties of phase velocities with SPAC arrays including structural boundary	H. Shiraishi, H. Asanuma ¹²⁾	Abstract of the 2013 AGU Fall Meeting, NS43A-1783 (2013) (12 Dec. 2013, San Francisco, USA)	183頁
Chemical weathering rate in a steep mountain basin of Northern Japanese Alps: Estimation from in situ cosmogenic nuclides and geochemical mass balance model	T. Hattajji ⁶³⁾ , Y. Matsushi ⁶⁸⁾ , Y. Kitamura ⁶³⁾ , C.T. Oguchi ¹⁾ , S. Hachinohe, H. Matsuzaki ³⁵⁾	Abstract of the 8th International conference (AIG) on Geomorphology, 603 (31 Aug. 2013, Paris, France).	183頁

(注) 執筆者の所属機関名は218ページに一覧にした。

5. 4. 3 総説・解説

(13件)

題名	執筆者	掲載誌	抄録
微小粒子状物質に関する問題の背景と現状	坂本和彦	環境管理、Vol.49、No.6、4-13 (2013)	184頁
微小粒子状物質(PM _{2.5})について－発生と制御－	坂本和彦	紙パ技協誌、Vol.67、No.12、1377-1381 (2013)	184頁
微小粒子状物質(PM _{2.5})の発生と対策	坂本和彦	電気ガラス、No.49、10-14 (2013)	184頁
大気中における微小粒子状物質(PM _{2.5})の動態	坂本和彦	大気環境学会誌、Vol.49、No.1、A2-A6 (2014)	185頁

題 名	執 筆 者	掲 載 誌	抄録
温暖化フォーラム(石川)報告「温暖化適応策と農業現場での適応行動」	田中博春 ⁶⁴⁾ 、小林和彦 ³⁵⁾ 、馬場健司 ⁸⁾ 、増富祐司、広田知良 ⁶⁵⁾	生物と気象、Vol.13、B1-14 (2013)	185頁
埼玉県におけるPM2.5の実態	長谷川就一、米持真一	安全工学、Vol.52、No.6、394-400 (2013)	185頁
一般廃棄物不燃・粗大ごみの適正処理に関する研究(その3)～不燃ごみ中の廃電化製品調査～	川寄幹生、磯部友護、鈴木和将、渡辺洋一、小野雄策 ⁶⁶⁾	都市清掃、Vol.66、No.313、260-264 (2013)	186頁
不法投棄等現場の堆積廃棄物の斜面安定性評価に関する研究結果	山脇敦 ⁶⁷⁾ 、島岡隆行 ³⁷⁾ 、大嶺聖 ³⁷⁾ 、川井晴至 ³⁷⁾ 、勝見武 ⁶⁸⁾ 、川寄幹生、土居洋一 ⁶⁹⁾ 、柴暁利 ⁷⁰⁾ 、坂口伸也 ⁷¹⁾ 、小原孝之 ⁷¹⁾	産廃振興財団NEWS、Vol.21、No.71、19-24 (2013)	186頁
面的水管理・カスケード型資源循環システムの統合評価	増田貴則 ⁷²⁾ 、山田正人 ³⁾ 、石垣智基 ³⁾ 、松岡真如 ⁷³⁾ 、藤原拓 ⁷³⁾ 、長谷隆仁	環境衛生工学研究、Vol.27、No.3、44-47 (2013)	186頁
ダイオキシン類汚染の由来を探る	養毛康太郎	化学と教育、Vol.61、No.10、490-491 (2013)	187頁
河川水質の現状と環境基準をめぐる動向	高橋基之	環境ニュース、Vol.140、2-7 (2013)	187頁
学術研究船淡青丸KT-12-35研究航海の概要－相模トラフ沿い沈み込み帯の構造と地震発生帯の関係の解明－	石井輝秋 ⁷⁴⁾ 、川村喜一郎 ³⁶⁾ 、小林励司 ⁷⁵⁾ 、濱元栄起、山下浩之 ⁷⁶⁾ 、安川和孝 ³⁵⁾ 、大田隼一郎 ³⁵⁾ 、名取孝人 ⁴¹⁾ 、吉田尊智 ⁷⁷⁾ 、原口悟 ³⁵⁾ 、中村謙太郎 ⁵¹⁾ 、中野幸彦 ⁷⁸⁾	深田地質研究所年報、No.14、29-56 (2013)	187頁
関東平野中央部の第四系地下地質	納谷友規 ¹²⁾ 、石原武志 ¹²⁾ 、植木岳雪 ¹²⁾ 、本郷美佐緒 ¹²⁾ 、松島紘子 ¹²⁾ 、八戸昭一、吉見雅行 ¹²⁾ 、水野清秀 ¹²⁾	特殊地質図、No.40、178-203 (2014)	188頁

(注) 執筆者の所属機関名は218ページに一覧にした。

5. 4. 4 国内学会発表

(106件)

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び共同研究者	抄録
H25. 4. 13	日本堆積学会2013年千葉大会(千葉大学)	関東平野中央部の地下600m以浅に分布する更新統の層序－浅海成層の詳細対比への試み－	納谷友規 ¹²⁾ 、植木岳雪 ¹²⁾ 、本郷美佐緒 ⁸⁰⁾ 、八戸昭一、水野清秀 ¹²⁾	212頁
H25. 5. 18	日本地下水学会2013年春季講演会(千葉大学)	関東平野中央部の地下温度にみられる近年の変化とその要因	宮越昭暢 ¹²⁾ 、林武司 ⁸⁰⁾ 、濱元栄起、八戸昭一	213頁
H25. 5. 21	日本地球惑星科学連合2013年大会(千葉市)	日本海溝海側の高熱流量異常と沈み込む太平洋プレートの変形	山野誠 ⁵⁰⁾ 、川田佳史 ⁵⁰⁾ 、濱元栄起、後藤秀作 ¹²⁾	213頁
H25. 5. 22	日本地球惑星科学連合2013年大会(千葉市)	地下温度分布から推定する地下の温暖化	濱元栄起、山野誠 ⁵⁰⁾ 、後藤秀作 ¹²⁾ 、八戸昭一、白石英孝、石山高、佐竹健太、宮越昭暢 ¹²⁾ 、谷口真人 ⁵⁶⁾ 、有本弘孝 ⁵⁴⁾ 、北岡豪 ^{—55)}	213頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H25. 5. 24	日本地球惑星科学連合 2013年大会 (千葉市)	西部地中海リッジ付加複合体(東地中海)における海底泥火山の発達および温度構造	喜岡新 ⁵³⁾ 、芦寿一郎 ⁵³⁾ 、坂口有人 ⁵¹⁾ 、佐藤時幸 ⁸⁰⁾ 、村岡諭 ⁵³⁾ 、濱元栄起、K. Wang ⁸¹⁾ 、徳山英一 ⁷³⁾ KH-06-4 Leg 6 乗船者 ⁵³⁾	213頁
H25. 6. 13	第19回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会 (京都大学)	鉄酸化物分別溶解法を適用した地下水砒素汚染メカニズム解析手法の検討	石山高、八戸昭一、濱元栄起、白石英孝、細野繁雄	214頁
H25. 6. 28	日本音響学会騒音・振動研究会 (国分寺市)	交通騒音に対する住民反応への家屋振動の影響	横島潤紀 ⁶²⁾ 、松本泰尚 ¹⁾ 、白石英孝、太田篤史 ⁶⁾ 、田村明弘 ⁶⁾	214頁
H25. 6. 28	日本音響学会騒音・振動研究会 (国分寺市)	さいたま市における交通振動の実態と社会反応について	松本泰尚 ¹⁾ 、横島潤紀 ⁶²⁾ 、白石英孝	214頁
H25. 7. 4	第50回アイソトープ・放射線研究発表会 (東京大学)	埼玉県内のモデル生態系(池)における各種試料中の放射能	三宅定明 ⁸²⁾ 、長浜善行 ⁸²⁾ 、竹熊美貴子 ⁸²⁾ 、吉田栄充 ⁸²⁾ 、野本かほる ⁸²⁾ 、高野真理子 ⁸²⁾ 、嶋田知英	189頁
H25. 7. 31	第22回環境化学討論会 (東京農工大学)	ソックスレー抽出にかかる作業効率化のための工夫	野尻喜好、大塚宜寿、蓑毛康太郎	203頁
H25. 7. 31	第22回環境化学討論会 (東京農工大学)	河川水中の8:2FTOHの生分解挙動	茂木守、野尻喜好、堀井勇一	204頁
H25. 7. 31	第22回環境化学討論会 (東京農工大学)	河川水中のネオニコチノイド系殺虫剤の分析	大塚宜寿、野尻喜好、蓑毛康太郎、茂木守、堀井勇一	204頁
H25. 7. 31	第22回環境化学討論会 (東京農工大学)	底質・生物試料中揮発性メチルシロキサンの分析法検討	堀井勇一、蓑毛康太郎	204頁
H25. 7. 31	第22回環境化学討論会 (東京農工大学)	下水処理施設における揮発性メチルシロキサンの排出傾向	堀井勇一、蓑毛康太郎、茂木守、野尻喜好	204頁
H25. 7. 31	第50回下水道研究発表会 (東京都江東区)	実下水処理施設におけるN ₂ O連続測定結果の解析	見島伊織、吉田征史 ⁴²⁾ 、藤田昌史 ⁶¹⁾	207頁
H25. 8. 1	第22回環境化学討論会 (東京農工大学)	生物処理施設におけるフッ素テロマーアルコール類の測定	野尻喜好、堀井勇一、茂木守	205頁
H25. 8. 1	第22回環境化学討論会 (東京農工大学)	河川水中の <i>N</i> -MeFOSEの生分解挙動	茂木守、野尻喜好、堀井勇一	205頁
H25. 8. 1	第22回環境化学討論会 (東京農工大学)	ダイオキシン類データへの星座グラフ法の適用	蓑毛康太郎、大塚宜寿、堀井勇一	205頁
H25. 8. 1	第22回環境化学討論会 (東京農工大学)	東京湾集水域における揮発性メチルシロキサンの濃度分布	堀井勇一、蓑毛康太郎、野尻喜好	205頁
H25. 8. 1	第22回環境化学討論会 (東京農工大学)	実験炉を用いたハロゲン化多環芳香族炭化水素類の生成機構調査	三宅祐一 ³²⁾ 、王齊 ³²⁾ 、雨谷敬史 ³²⁾ 、堀井勇一、野尻喜好、大塚宜寿	206頁
H25. 8. 2	第22回環境化学討論会 (東京農工大学)	降水によって水環境に移行しうる燃焼由来ダイオキシン類	蓑毛康太郎、大塚宜寿、野尻喜好、松本利恵	206頁
H25. 8. 2	第22回環境化学討論会 (東京農工大学)	廃棄物焼却施設からのハロゲン化多環芳香族炭化水素の排出手動解析	王齊 ³²⁾ 、三宅祐一 ³²⁾ 、雨谷敬史 ³²⁾ 、堀井勇一、野尻喜好、大塚宜寿	206頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H25. 8. 27	第30回エアロゾル科学・技術研究討論会（京都市）	さいたま市都市部大気中のスギ花粉アレルゲン物質Cry j 1の粒径分布	王青躍 ¹⁾ 、ゴン秀民 ¹⁾ 、董詩洋 ¹⁾ 、高井優子 ¹⁾ 、鈴木美穂 ¹⁾ 、関口和彦 ¹⁾ 、三輪誠、中島大介 ³⁾	196頁
H25. 8. 27	第30回エアロゾル科学・技術研究討論会（京都市）	さいたま市都市部大気中のスギ花粉アレルゲン物質Cry j 1放出と修飾	王青躍 ¹⁾ 、ゴン秀民 ¹⁾ 、高井優子 ¹⁾ 、鈴木美穂 ¹⁾ 、董詩洋 ¹⁾ 、関口和彦 ¹⁾ 、中島大介 ³⁾ 、三輪誠	196頁
H25. 8. 28	第30回エアロゾル科学・技術研究討論会（京都市）	飛行時間型エアロゾル質量分析計を用いた道路沿道におけるエアロゾル組成の観測	萩野浩之 ⁸³⁾ 、関口和彦 ¹⁾ 、坂本和彦	189頁
H25. 8. 29	第30回エアロゾル科学・技術研究討論会（京都市）	エアロゾル炭素成分測定におけるアーティファクトの影響検討	長谷川就一	190頁
H25. 9. 3	環境科学会2013年会（静岡市）	Effect of different fertilizers on growth and Cd accumulation of three plants in contaminated soil	王効挙、李涛 ²⁴⁾ 、程紅艶 ²⁴⁾	196頁
H25. 9. 3	環境科学会2013年会（静岡市）	廃棄物焼却施設から排出されたハロゲン化多環芳香族炭化水素類の大気中濃度推定と実測濃度との比較	王齊 ³²⁾ 、三宅祐一 ³²⁾ 、雨谷敬史 ³²⁾ 、堀井勇一、野尻喜好、大塚宜寿	206頁
H25. 9. 4	環境科学会2013年会（静岡市）	埼玉県における温暖化適応策への取組みと今後の展開	嶋田知英	189頁
H25. 9. 4	環境科学会2013年会（静岡市）	揮発性メチルシロキサン環境排出実態と生態環境影響の評価	堀井勇一	207頁
H25. 9. 6	日本騒音制御工学会平成25年秋季研究発表会（熊本大学）	道路交通振動に係る要請限度の検証	横島潤紀 ⁶²⁾ 、松本泰尚 ¹⁾ 、白石英孝、太田篤史 ⁶⁾ 、田村明弘 ⁶⁾	214頁
H25. 9. 11	日本分析化学会第62年会（近畿大学）	不燃ごみ処理残さの物理化学的特性	川寄幹生、磯部友護、鈴木和将、渡辺洋一	198頁
H25. 9. 11	第78回日本陸水学会大会（龍谷大学）	琵琶湖水中のフルボ酸の生物影響評価手法について	早川和秀 ⁴⁷⁾ 、岡本高弘 ⁴⁷⁾ 、一瀬諭 ⁴⁷⁾ 、古田世子 ⁴⁷⁾ 、田中仁志、三崎健太郎 ⁸⁴⁾ 、日下部武敏 ⁸⁴⁾ 、清水芳久 ⁸⁴⁾ 、藤嶽暢英 ⁸⁵⁾	207頁
H25. 9. 12	第78回日本陸水学会大会（龍谷大学）	湖沼における沿岸帯の機能評価について(2)－泥質化に及ぼす流れと湖岸勾配の影響－	奥村浩気 ⁴⁶⁾ 、岸本直之 ⁴⁶⁾ 、一瀬諭 ⁴⁷⁾ 、馬場大哉 ⁴⁸⁾ 、田中仁志	208頁
H25. 9. 12	第78回日本陸水学会大会（龍谷大学）	湖沼における沿岸帯の機能評価について(6)－浅い富栄養湖沼山ノ神沼における底層環境とシードバンク機能－	田中仁志、古田世子 ⁴⁷⁾ 、廣瀬佳則 ⁴⁷⁾ 、藤原直樹 ⁴⁷⁾ 、一瀬諭 ⁴⁷⁾ 、馬場大哉 ⁴⁸⁾ 、岸本直之 ⁴⁶⁾ 、西村修 ⁴¹⁾	208頁
H25. 9. 17	第74回応用物理学会秋季学術講演会（同志社大学）	Ozone stress monitoring of plants based on OCT biospeckle imaging: 2nd report	L.K.T. Srimal ¹⁾ 、H. Kadono ¹⁾ 、T. Yonekura	196頁
H25. 9. 18	第54回大気環境学会年会（新潟市）	常圧分級装置と従来型低圧分級装置による2013年冬季の粒径別大気粒子中のPAH成分量の比較	柴田慶子 ⁵⁷⁾ 、塩谷健二 ⁵⁷⁾ 、坂本和彦	189頁
H25. 9. 18	第54回大気環境学会年会（新潟市）	地方環境研究所の共同によるPM2.5観測	長谷川就一、山神真紀子 ¹⁶⁾ 、菅田誠治 ³⁾	191頁
H25. 9. 18	第54回大気環境学会年会（新潟市）	PM2.5発生源寄与評価の現状と展望	飯島明宏 ⁸⁶⁾ 、池盛文数 ¹⁶⁾ 、長谷川就一、菅田誠治 ³⁾	191頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H25. 9. 18	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	本年1月の中国北京市のPM2.5汚染と 埼玉県の状態	米持真一	191頁
H25. 9. 18	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	埼玉県におけるアルデヒド類・ケトン類 の大気濃度調査(2)	松本利恵、竹内庸夫	191頁
H25. 9. 18	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	全国酸性雨調査(82)－乾性沈着(沈 着量の推計)－	松本利恵、山水敏明 ⁸⁷⁾ 、 野口泉 ⁸⁸⁾ 、小塚義昭 ⁸⁹⁾ 、 竹内淨 ⁸⁹⁾ 、財原宏一 ⁸⁹⁾ 、 松田和秀 ⁹⁰⁾	192頁
H25. 9. 18	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	埼玉県の環境大気中における酸化エ チレン濃度の経年変動(2)	佐坂公規、梅沢夏実	192頁
H25. 9. 18	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	光学的方法によるブラックカーボン粒 子濃度の全国調査(1)－粒子中のブ ラックカーボンとカリウムイオン濃度の 関係－	松本利恵、野口泉 ⁸⁸⁾ 、本 多宏充 ⁹¹⁾ 、横山新紀 ⁹²⁾ 、 木戸瑞佳 ⁹³⁾ 、初鹿宏壮 ⁹³⁾ 中島寛則 ¹⁶⁾ 、山神真紀 子 ¹⁶⁾ 、武市佳子 ⁹⁴⁾ 、濱村 研吾 ⁹⁵⁾ 、岩崎綾 ⁹⁶⁾ 、恵花 孝昭 ⁹⁷⁾ 、村尾直人 ⁹¹⁾	192頁
H25. 9. 18	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	わが国における大気中HONOの挙動 (4)	野口泉 ⁸⁸⁾ 、山口高志 ⁸⁸⁾ 、 松本利恵、岩崎綾 ⁹⁶⁾ 、 玉森洋樹 ⁹⁸⁾ 、堀江洋佑 ⁹⁹⁾ 、浴口智行 ¹⁰⁰⁾ 、富田健 介 ⁹⁴⁾ 、恵花孝昭 ⁹⁷⁾ 、竹中 規訓 ¹⁰¹⁾	192頁
H25. 9. 18	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	大気汚染フィルターを再利用した黒色 炭素エアロゾルの測定	村尾直人 ⁹¹⁾ 、松本利恵、 野口泉 ⁸⁸⁾ 、本多宏充 ⁹¹⁾	193頁
H25. 9. 18	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	2012年春季から夏季に西日本で観測 されたPM2.5高濃度イベントの要因解 析	山本重一 ⁹⁵⁾ 、下原孝章 ⁹⁵⁾ 濱村研吾 ⁹⁵⁾ 、山本勝彦 ¹⁸⁾ 谷口延子 ¹⁰²⁾ 、山崎敬久 ⁹³⁾ 、長谷川就一、三田村 徳子 ⁴⁷⁾ 、長田健太郎 ¹⁹⁾ 、 田村圭 ¹⁰³⁾ 、家合浩明 ¹⁰⁴⁾ 、小林優太 ¹⁰⁵⁾ 、菅田 誠治 ³⁾ 、大原利真 ³⁾	193頁
H25. 9. 18	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	植物に対する低線量環境放射線の影 響	青野光子 ³⁾ 、三輪誠、 岡崎淳 ⁹²⁾ 、小松宏昭 ⁶²⁾ 、 武田麻由子 ⁶²⁾ 、岡村祐 里子 ¹⁶⁾ 、山神真紀子 ¹⁶⁾ 、 須田隆一 ⁹⁵⁾ 、古川誠 ¹⁰⁶⁾ 、 渡邊稔 ¹⁰⁶⁾ 、玉置雅紀 ³⁾ 、 中嶋信美 ³⁾ 、久保明弘 ³⁾ 、 佐治光 ³⁾	197頁
H25. 9. 18	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	ハウレンソウの栽培時期による気孔密 度の変動とオゾンによる可視被害に関 する検討	印南ゆかり ²⁵⁾ 、三輪誠	197頁
H25. 9. 18	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	ハウレンソウの施肥量増加によるオゾ ン被害軽減効果の検討	三輪誠、印南ゆかり ²⁵⁾	197頁
H25. 9. 18	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	落葉広葉樹4種の葉の純光合成速度 におよぼす1成長期間のオゾン暴露の 影響とオゾン吸収量との関係	松村秀幸 ¹⁰⁾ 、山口真弘 ⁹⁰⁾ 黄瀬佳之 ⁹⁰⁾ 、米倉哲志、 伊豆田猛 ⁹⁰⁾	197頁
H25. 9. 19	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	堂平山観測所における二酸化炭素高 濃度事例解析について(2)	武藤洋介	190頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H25. 9. 19	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	低流量・長時間捕集による大気中水銀測定	梅沢夏実	193頁
H25. 9. 19	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	2013年1月に北京市、上海市で採取したPM2.5、PM1の特徴	米持真一、X. Chen ¹⁴⁾ 、 P. Miao ¹⁴⁾ 、S. Lu ¹⁵⁾ 、 王効挙、梅沢夏実	193頁
H25. 9. 20	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	さいたま市・埼玉県による粒子状物質調査－PM1とPM2.5の比較－	城裕樹 ¹⁰⁷⁾ 、米持真一、 梅沢夏実、長谷川就一	194頁
H25. 9. 20	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	粒子状炭素成分測定におけるアーティファクトの影響検討(3)	長谷川就一	194頁
H25. 9. 20	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	埼玉県におけるPM2.5炭素成分の季節比較とその要因	長谷川就一、米持真一	194頁
H25. 9. 20	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	沿道と一般環境における大気中ナノ粒子の粒径分布の長期観測(2004-2012)	高橋克行 ¹⁰⁸⁾ 、藤谷雄二 ³⁾ 、 伏見暁洋 ³⁾ 、長谷川就一、 田邊潔 ³⁾ 、小林伸治 ³⁾	194頁
H25. 9. 20	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	バイオマス焼却周辺で採取したPM2.5、PM1の特徴	米持真一、清水彩菜 ¹⁾ 、 小林亮太 ¹⁾ 、関口和彦 ¹⁾ 、 坂本和彦	195頁
H25. 9. 20	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	都市大気における微小エアロゾル(PM2.5、PM1)の化学組成の季節変化	柳本悠輔 ¹⁰⁹⁾ 、米持真一、 村田克 ¹⁰⁹⁾ 、名古屋俊士 ¹⁰⁹⁾	195頁
H25. 9. 20	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	微小粒子中に含まれるレアアースと磁性成分に着目した越境大気汚染の評価	米持真一、S. Lu ¹⁵⁾ 、 柳本悠輔 ¹⁰⁹⁾ 、大河内博 ¹⁰⁹⁾ 、 名古屋俊士 ¹⁰⁹⁾	195頁
H25. 9. 20	第54回大気環境学会年会 (新潟市)	熱力学平衡モデルISORROPIAによる硝酸ガス・粒子分配の精度検証	嶋寺光 ⁹⁾ 、速水洋 ¹⁰⁾ 、 長谷川就一、米持真一、 熊谷貴美代 ¹¹⁰⁾ 、山口直哉 ¹¹⁰⁾	195頁
H25. 10. 25	第64回全国水道研究発表会 (郡山市)	経年した塩化ビニル管の水道水中の元素濃度への影響	石渡恭之 ⁶¹⁾ 、加藤健 ¹¹¹⁾ 、 見島伊織、杉山達範 ¹¹²⁾ 、 藤田昌史 ⁶¹⁾	208頁
H25. 10. 25	第64回全国水道研究発表会 (郡山市)	XAFS測定を用いた水道管ネットワークにおける懸濁態鉄の形態解析	見島伊織、石渡恭之 ⁶¹⁾ 、 加藤健 ¹¹¹⁾ 、藤田昌史 ⁶¹⁾	208頁
H25. 11. 2	第24回廃棄物資源循環学会研究発表会 (北海道大学)	再生砕石敷設現場におけるアスベスト飛散実験	渡辺洋一、川寄幹生、 磯部友護、鈴木和将、 中島知樹 ⁶⁶⁾ 、小野雄策 ⁶⁶⁾	198頁
H25. 11. 2	第24回廃棄物資源循環学会研究発表会 (北海道大学)	廃棄物の種類別にみた化学組成	渡辺洋一、浦野真弥 ¹¹³⁾ 、 小野雄策 ⁶⁶⁾ 、谷川昇 ¹¹⁴⁾	199頁
H25. 11. 2	第24回廃棄物資源循環学会研究発表会 (北海道大学)	アスベスト含有建設廃棄物の分離手法	朝倉宏 ¹¹⁵⁾ 、鈴木和将、 川寄幹生、渡辺洋一	199頁
H25. 11. 2	第24回廃棄物資源循環学会研究発表会 (北海道大学)	廃棄物バイオマスガス化改質への触媒適用性の評価	川本克也 ³⁾ 、魯保旺 ³⁾ 、 田川智彦 ³⁾ 、山田博史 ¹¹⁶⁾ 、 鈴木和将	199頁
H25. 11. 3	第24回廃棄物資源循環学会研究発表会 (北海道大学)	溶出成分から見た最終処分産業廃棄物の性状分類と管理方法の検討	浦野真弥 ¹¹³⁾ 、渡辺洋一、 小野雄策 ⁶⁶⁾ 、谷川昇 ¹¹⁴⁾	199頁
H25. 11. 3	第24回廃棄物資源循環学会研究発表会 (北海道大学)	一般廃棄物不燃・粗大ごみの適正処理に関する研究	川寄幹生、磯部友護、 鈴木和将、渡辺洋一	200頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H25. 11. 3	第24回廃棄物資源循環学会研究発表会 (北海道大学)	不法投棄等現場の堆積廃棄物層で留意すべき斜面崩壊に関する研究	山脇敦 ⁶⁷⁾ 、島岡隆行 ³⁷⁾ 、大嶺聖 ¹¹⁵⁾ 、勝見武 ⁶⁸⁾ 、川寄幹生、土居洋一 ¹¹⁷⁾ 、柴暁利 ⁷⁰⁾ 、川井晴至 ³⁷⁾ 、坂口伸也 ⁷¹⁾ 、小原孝之 ⁷¹⁾	200頁
H25. 11. 3	第24回廃棄物資源循環学会研究発表会 (北海道大学)	東日本大震災後の西日本における一般廃棄物焼却施設の発電状況実態調査	鈴木和将、大畠誠 ¹¹⁸⁾ 、川本克也 ³⁾	200頁
H25. 11. 3	第24回廃棄物資源循環学会研究発表会 (北海道大学)	廃棄物層調査における電磁探査法の適用事例(4)	大石修 ⁹²⁾ 、田中宏和 ²²⁾ 、磯部友護	200頁
H25. 11. 4	第24回廃棄物資源循環学会研究発表会 (北海道大学)	廃棄物埋立地浸出水中の溶存メタン	長森正尚	201頁
H25. 11. 4	第24回廃棄物資源循環学会研究発表会 (北海道大学)	不法投棄等現場の堆積廃棄物の斜面安定性評価のための試験・解析法に関する一考察	山脇敦 ⁶⁷⁾ 、島岡隆行 ³⁷⁾ 、大嶺聖 ¹¹⁵⁾ 、勝見武 ⁶⁸⁾ 、川寄幹生、土居洋一 ¹¹⁷⁾ 、柴暁利 ⁷⁰⁾ 、川井晴至 ³⁷⁾ 、坂口伸也 ⁷¹⁾ 、小原孝之 ⁷¹⁾	201頁
H25. 11. 4	第24回廃棄物資源循環学会研究発表会 (北海道大学)	不法投棄等現場の堆積廃棄物の安息角試験による簡易法面安定評価方法の研究	土居洋一 ¹¹⁷⁾ 、山脇敦 ⁶⁷⁾ 、川寄幹生	201頁
H25. 11. 4	第24回廃棄物資源循環学会研究発表会 (北海道大学)	廃棄物地盤の強度推定のための現場土圧試験の開発	大嶺聖 ¹¹⁵⁾ 、山脇敦 ⁶⁷⁾ 、土居洋一 ¹¹⁷⁾ 、川寄幹生	201頁
H25. 11. 4	第24回廃棄物資源循環学会研究発表会 (北海道大学)	揚水返送循環方式による最終処分場安定化促進技術の基礎研究	田中宏和 ²²⁾ 、椿雅俊 ¹¹⁹⁾ 、磯部友護、大石修 ⁹²⁾ 、藤井直幸 ¹²⁰⁾ 、大家清紀 ¹²⁰⁾ 、石垣智基 ³⁾ 、遠藤和人 ³⁾ 、山田正人 ³⁾ 、香村一夫 ¹⁰⁹⁾	202頁
H25. 11. 9	第16回日本水環境学会シンポジウム(琉球大学)	環境負荷低減のための小型浄化槽への間欠運転導入技術開発	木持謙、菅原崇聖 ¹²¹⁾ 、新田健斗 ⁴⁵⁾ 、稲森隆平 ⁴⁵⁾ 、田畑洋輔 ¹²²⁾ 、手塚圭治 ¹²²⁾ 、徐開欽 ³⁾ 、稲森悠平 ⁴⁵⁾	209頁
H25. 11. 12	日本光学会年次学術講演会(奈良市)	OCT biospeckle imaging to investigate response of plant leaves to ozone	L.K.T. Srimal ¹⁾ 、H. Kadono ¹⁾ 、T. Yonekura	198頁
H25. 11. 14	第50回日本水処理生物学会大会(神戸市)	富栄養湖沼山ノ神沼における底層環境と底質中の休眠藻類の再活性化条件の実験的検討	田中仁志、古田世子 ⁴⁷⁾ 、廣瀬佳則 ⁴⁷⁾ 、藤原直樹 ⁴⁷⁾ 、一瀬諭 ⁴⁷⁾ 、馬場大哉 ⁴⁸⁾ 、岸本直之 ⁴⁶⁾ 、西村修 ⁴¹⁾	209頁
H25. 11. 14	第50回日本水処理生物学会大会(神戸市)	魚類体重と沈水植物摂食嗜好性の評価	武田文彦 ⁴²⁾ 、小林紀子 ⁴³⁾ 、袋昭太 ⁴³⁾ 、中野和典 ⁴²⁾ 、相川良雄 ⁴¹⁾ 、西村修 ⁴¹⁾ 、田中仁志、林紀男 ⁴⁴⁾ 、稲森悠平 ⁴⁵⁾	209頁
H25. 11. 19-20	第50回環境工学研究フォーラム(北海道大学)	付着藻類が繁茂する上流域河川における溶存有機物質の特性	池田和弘、柿本貴志、見島伊織、高橋基之	209頁
H26. 1. 22	第35回全国都市清掃研究・事例発表会(盛岡市)	建設混合廃棄物の手選別実験	渡辺洋一、川寄幹生、鈴木和将、山本貴士 ³⁾ 、朝倉宏 ¹¹⁵⁾	202頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H26. 1. 22	第35回全国都市清掃研究 ・事例発表会（盛岡市）	埋立地ガスの簡易測定と精度管理	長森正尚	202頁
H26. 1. 22	第35回全国都市清掃研究 ・事例発表会（盛岡市）	一般廃棄物不燃・粗大ごみの適正処 理に関する研究(その4)～資源化の 促進及び埋立量削減への方策につい て～	川寄幹生、磯部友護、 鈴木和将、渡辺洋一、 花田隆 ¹²³⁾ 、武田隼一 ¹²³⁾ 、 生田考 ¹²³⁾	202頁
H26. 1. 22	第35回全国都市清掃研究 ・事例発表会（盛岡市）	地域的需要・農地窒素負荷を考慮し た有機性廃棄物のコンポスト利用と輸 送最適化モデルによる解析	長谷隆仁、渡辺洋一	203頁
H26. 1. 22	第35回全国都市清掃研究 ・事例発表会（盛岡市）	大規模埋立実験槽の安定化に関する 研究	磯部友護、渡辺洋一、 椿雅俊 ¹¹⁹⁾ 、小野雄策 ⁶⁶⁾ 、 東條安匡 ⁹¹⁾	203頁
H26. 1. 22	第35回全国都市清掃研究 ・事例発表会（盛岡市）	開発バイオマス化・改質プロセスの地 域導入効果の解析	鈴木和将、藤原健史 ¹²⁴⁾ 、 川本克也 ³⁾	203頁
H26. 2. 20	ブルーアース2014 （東京海洋大学）	紀伊半島沖～四国沖南海トラフ底の 熱流量分布－沈み込む四国海盆の地 殻構造との関係－	山野誠 ⁵⁰⁾ 、川田佳史 ⁵⁰⁾ 、 後藤秀作 ¹²⁾ 、濱元栄起、 池原実 ⁷³⁾ 、川村喜一郎 ³⁶⁾ NT11-23・KY12-14・KY 13-16乗船研究者	215頁
H26. 3. 17-18	第48回日本水環境学会年 会（東北大学）	埼玉県内河川におけるネオニコチノイ ド系殺虫剤7化合物の汚染実態	大塚宜寿、野尻喜好、 養毛康太郎、茂木守、 堀井勇一	207頁
H26. 3. 17	第48回日本水環境学会年 会（東北大学）	単細胞緑藻クラミドモナスの鞭毛再生 による湖沼蓄積性難分解性物質の影 響	田中仁志、早川和秀 ⁴⁷⁾ 、 藤嶽暢英 ⁸⁵⁾ 、中村省吾 ¹²⁵⁾ 、 西村修 ⁴¹⁾	210頁
H26. 3. 17	第48回日本水環境学会年 会（東北大学）	三次元励起蛍光スペクトル法による河 川水質モニタリング	池田和弘、高橋基之、 柿本貴志、見島伊織、 渡邊圭司	210頁
H26. 3. 17	第48回日本水環境学会年 会（東北大学）	河川における浮遊細菌の変動と水質 との関係	渡邊圭司、柿本貴志、 池田和弘、見島伊織、 高橋基之、山村茂樹 ³⁾	210頁
H26. 3. 17	第48回日本水環境学会年 会（東北大学）	河川の滞留区間における藻類の発生 状況と汚濁影響に関する研究	柿本貴志、池田和弘、 渡邊圭司、見島伊織、 高橋基之、木幡邦男	210頁
H26. 3. 17	第48回日本水環境学会年 会（東北大学）	放射光解析を活用したリン除去型浄 化槽の最適運転方法の検討	見島伊織、池田和弘、 濱みずほ ¹²²⁾ 、田畑洋輔 ¹²²⁾ 、 横山裕太 ¹²⁶⁾ 、 中島淳 ¹²⁶⁾	211頁
H26. 3. 17	第48回日本水環境学会年 会（東北大学）	琵琶湖沿岸帯の底質性状が溶存酸素 消費に与える影響の評価	奥村浩気 ⁴⁶⁾ 、岸本直之 ⁴⁶⁾ 、 一瀬諭 ⁴⁷⁾ 、馬場大哉 ⁴⁸⁾ 、 田中仁志	211頁
H26. 3. 17	第48回日本水環境学会年 会（東北大学）	琵琶湖水中のフルボ酸が藻類と甲殻 類へ与える影響について	早川和秀 ⁴⁷⁾ 、廣瀬佳則 ⁴⁷⁾ 、 古田世子 ⁴⁷⁾ 、一瀬諭 ⁴⁷⁾ 、 岡本高弘 ⁴⁷⁾ 、田中仁志、 三崎健太郎 ⁸⁴⁾ 、日下部 武敏 ⁸⁴⁾ 、清水芳久 ⁸⁴⁾ 、 藤嶽暢英 ⁸⁵⁾	211頁
H26. 3. 17	第48回日本水環境学会年 会（東北大学）	中国農用地土壌中における有害重金 属類の存在形態と植物への移行特性 の検討	石山高、八戸昭一、 濱元栄起、白石英孝、 細野繁雄	215頁

期 日	学会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者	抄録
H26. 3. 18	日本農業気象学会2014年 全国大会（北海道大学）	白未熟粒発生率推計モデルの開発	増富祐司、荒川誠 ²⁵⁾ 、 箕田豊尚 ²⁵⁾ 、米倉哲志、 嶋田知英	190頁
H26. 3. 18	第48回日本水環境学会年 会（東北大学）	イタセンパラとイシガイ科二枚貝が生 息する富山県下の小河川における微 生物群集構造の解析	田中大祐 ¹²⁵⁾ 、高橋透陽 ¹²⁵⁾ 、 田岸恵理花 ¹²⁵⁾ 、 田中仁志、木持謙、西尾 正輝 ¹²⁵⁾¹²⁷⁾ 、山崎裕治 ¹²⁵⁾ 酒徳昭宏 ¹²⁵⁾ 、中村省吾 ¹²⁵⁾	211頁
H26. 3. 19	日本農業気象学会2014年 全国大会（北海道大学）	温暖化政策支援モデルのための全球 作物収量影響関数の開発	田中朱美 ⁹¹⁾ 、高橋潔 ³⁾ 、 増富祐司、花崎直太 ³⁾ 、 脇岡靖明 ³⁾ 、蘇宣銘 ³⁾ 、 長谷川知子 ³⁾ 、藤森真一 郎 ³⁾ 、増井利彦 ³⁾	190頁
H26. 3. 19	第48回日本水環境学会年 会（東北大学）	水道管内流水中の懸濁物の組成およ び化学形態	石渡恭之 ⁶¹⁾¹¹¹⁾ 、明石詢 子 ⁶¹⁾ 、加藤健 ¹¹¹⁾ 、見島伊 織、齋藤茂 ¹²⁸⁾ 、藤田昌 史 ⁶¹⁾	212頁
H26. 3. 19	第48回日本水環境学会年 会（東北大学）	水道管内流水中の懸濁物質の生成に 及ぼす流下距離の影響	明石詢子 ⁶¹⁾ 、石渡恭之 ⁶¹⁾ ¹¹¹⁾ 、齋藤茂 ¹²⁸⁾ 、加藤健 ¹¹¹⁾ 、見島伊織、藤田昌 史 ⁶¹⁾	212頁
H26. 3. 28	第125回日本森林学会大 会（さいたま市）	森林樹木葉の放射性セシウムの取り 込みと新芽への転流傾向	錦織達啓 ³⁾ 、渡邊未来 ³⁾ 、 石井弓美子 ³⁾ 、越川昌美 ³⁾ 、渡邊圭司、竹中明夫 ³⁾ 、林誠二 ³⁾	212頁
H26. 3. 29	第125回日本森林学会大 会（さいたま市）	埼玉県奥秩父における大気中オゾン 濃度の測定と周辺ブナ林に対するオ ゾン影響の推測	三輪誠	198頁

(注) 共同研究者の所属機関名は218ページに一覧にした。

5. 4. 5 その他の研究発表

(32件)

期 日	発表会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者
H25. 5. 15	統合的陸域圏研究連絡会 (東京都渋谷区)	陸面過程モデルと作物生長モデルについて	増富祐司
H25. 6. 29	平成25年度海外学術調査 フォーラム (東京外国語大学)	中国農用地汚染土壌における植物を用いた 収益型修復技術の確立	王効挙、米持真一、 磯部友護、細野繁雄、 謝英荷 ²⁴⁾ 、程紅艷 ²⁴⁾ 、 胡雪峰 ¹⁵⁾ 、曹鉄華 ⁶⁰⁾
H25. 7. 11	平成25年度全国環境研協 議会関東甲信静支部騒音 振動専門部会（静岡市）	スクラップシャーによる家屋振動の調査事例	白石英孝
H25. 7. 12	埼玉県下水道公社第23回 調査研究事業報告会 (戸田市)	埼玉県内の流域下水道におけるN ₂ O発生量 の把握と発生抑制方法の基礎的検討	見島伊織
H25. 8. 28	第30回エアロゾル科学・技 術研究討論会（京都市）	大気汚染情報をどのように社会へ伝え、生か すかー再考ー	長谷川就一

期 日	発表会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者
H25. 9. 2	Workshop for young scientist at 3rd International Conference on Nitrification (Chuo University, Tokyo)	Characteristics of nitrous oxide emission and behavior of nitrifying bacteria in a full scale wastewater treatment plant	I. Mishima, Y. Yoshida ⁴²⁾ , M. Fujita ⁶¹⁾
H25. 9. 13	4th SALSA Workshop (東京大学)	GIII 緑化班 研究成果について	村上暁信 ⁶³⁾ 、増富祐司
H25. 9. 17	第10回環境地盤工学シンポジウム (日本大学)	組成割合に着目した廃棄物地盤の原位置せん断強度特性に関する検討	宮本慎太郎 ³⁷⁾ 、安福規之 ³⁷⁾ 、大嶺聖 ¹¹⁵⁾ 、石藏良平 ³⁷⁾ 、山脇敦 ⁶⁷⁾ 、川井晴至 ³⁷⁾ 、川寄幹生、土居洋一 ¹¹⁷⁾
H25. 9. 25	第6回淡水魚保全シンポジウム淀川大会 (大阪工業大学)	県指定天然記念物「ムサシトミヨ生息地」の現状変更に伴う生息環境復元状況	金澤光
H25. 9. 26	The 9th Korea-Japan Environment Symposium (Jeju, Korea)	Chemical components of fine particulate matter collected in China and Japan last winter	S. Yonemochi
H25. 9. 26	The 9th Korea-Japan Environment Symposium (Jeju, Korea)	Determination of neonicotinoid pesticides in river water	N. Ohtsuka, K. Nojiri, K. Minomo, M. Motegi, Y. Horii
H25. 9. 26	The 9th Korea-Japan Environment Symposium (Jeju, Korea)	Environmental investigation on the habitat for conservation of endangered freshwater unionoid mussels in Saitama Prefecture, Japan	H. Tanaka, Y. Kimochi
H25. 9. 30	統計数理研究所研究報告会 (立川市)	揮発性メチルシロキサンモニタリングと環境リスク評価への展開	堀井勇一
H25. 10. 25	平成25年度全国環境研協議会関東甲信静支部水質専門部会 (千葉市)	BOD環境基準超過河川の原因追跡調査と蛍光分析の適用	池田和弘、高橋基之、田中仁志、木持謙、見島伊織、柿本貴志、渡邊圭司
H25. 10. 28	AgMIP 4th Annual Global Workshop (New York, USA)	Critical temperature and sensitivity for white immature rice kernels	Y. Masutomi, M. Arakawa ²⁵⁾ , T. Minoda ²⁵⁾ , T. Yonekura, T. Shimada
H25. 10. 31	II型研究「国内における化審法関連物質の排出源及び動態の解明」研究推進会議 (神戸市)	河川水を用いたフルオロロマーアルコールの生分解挙動	茂木守
H25. 11. 3	平成25年度全国環境研協議会廃棄物資源循環学会年会併設研究発表会 (北海道大学)	埼玉県におけるアルミニウム残灰の不適正処理事案に対する技術的対応	鈴木和将、磯部友護、長谷隆仁、川寄幹生、長森正尚、渡辺洋一
H25. 11. 6	第16回自然系調査研究機関連絡会議 (NORNAC) (輪島市)	埼玉県における県民参加を主体とした環境調査事例－光化学オキシダント(オゾン)によるアサガオ被害調査－	三輪誠、嶋田知英
H25. 11. 7	環太平洋ネクサスプロジェクト第1回全体会議 (小浜市)	地中熱利用システムの概要と地下環境への影響評価	濱元栄起、宮下雄次 ¹²⁹⁾ 、藤井賢彦 ⁹¹⁾ 、山田誠 ⁵⁶⁾

期 日	発表会の名称	発 表 テ ー マ	発表者及び 共同研究者
H25. 11. 7	環太平洋ネクサスプロジェクト第1回全体会議 (小浜市)	自噴地域における水・エネルギー連環による地下水保全手法の開発と実証に関する研究—小浜自噴帯湧水の地中熱利用と地下水保全—	宮下雄次 ¹²⁹⁾ 、濱元栄起
H25. 11. 26	第40回環境保全・公害防止研究発表会 (松山市)	埼玉県における河川水のネオニコチノイド系殺虫剤7化合物初期調査	大塚宜寿、野尻喜好、 蓑毛康太郎、茂木守、 堀井勇一
H25. 11. 27	気候変動適応シンポジウム「気候変動の影響と適応～地域の実践」 (法政大学)	先行地域における適応策検討の成果・課題・展望～事例1:埼玉県	嶋田知英
H25. 11. 27	第40回環境保全・公害防止研究発表会 (松山市)	建設混合廃棄物の組成調査実験	渡辺洋一、川寄幹生、 磯部友護、鈴木和将
H25. 11. 27	第40回環境保全・公害防止研究発表会 (松山市)	一般廃棄物不燃・粗大ごみの適正処理に関する研究	川寄幹生、磯部友護、 鈴木和将、渡辺洋一
H25. 11. 27	第40回環境保全・公害防止研究発表会 (松山市)	河川水/底質系におけるフルオロテロマーアルコールの生分解挙動	茂木守、野尻喜好、 堀井勇一
H25. 11. 27	第40回環境保全・公害防止研究発表会 (松山市)	沿岸帯の機能評価③～山ノ神沼底質における藻類シードバンク機能と環境因子の影響～	田中仁志、古田世子 ⁴⁷⁾ 、 一瀬諭 ⁴⁷⁾
H25. 12. 3	AgMIP Rice Team Workshop (Tsukuba, Japan)	Critical temperature and sensitivity for white immature rice kernels	Y. Masutomi, M. Arakawa ²⁵⁾ , T. Minoda ²⁵⁾ , T. Yonekura, T. Shimada
H26. 2. 13	The 5th Winter Symposium on Persistent Organic Pollutants and Emerging Contaminants (Gangwon, Korea)	Volatile methylsiloxanes in the environment; analysis, source, and environmental fate	Y. Horii
H26. 2. 22	ユネスコ未来遺産運動登録記念ムサシトミヨ繁殖報告会 (熊谷市)	100年後の子どもたちに熊谷の自然遺産を残し、伝えていくために必要なこと	金澤光
H26. 3. 16	第18回荒川流域再生シンポジウム「天然遡上のアユで溢れる流域の再生を語る」(嵐山町)	2013年度のアユ遡上環境調査の結果と5年間の調査結果報告	金澤光
H26. 3. 19	平成25年度第1回地下水地盤環境に関する研究協議会 地下水・地中熱等利用に関する研究委員会 (大阪市)	大阪都心部における地下温暖化履歴の推定	濱元栄起、有本弘孝 ⁵⁴⁾ 、 北岡豪 ⁵⁵⁾ 、谷口真人 ⁵⁶⁾
H26. 3. 25	山岳大気研究部門第3回成果報告会 (東京理科大学)	越境汚染現象の解明を目的とした磁気分離法の開発と適用	米持真一

(注) 共同研究者の所属機関名は218ページに一覧にした。

5.4.6 報告書

(7件)

報告書名	発行者	執筆担当	執筆者	発行年	抄録
ストップ温暖化・さいたまナビゲーション2050推進事業 平成24年度二酸化炭素濃度観測結果	埼玉県環境部温暖化対策課 埼玉県環境科学国際センター	全章	武藤洋介	H25	216頁
ストップ温暖化・さいたまナビゲーション2050推進事業 埼玉県温室効果ガス排出量推計報告書 2010年度確報値	埼玉県環境部温暖化対策課 埼玉県環境科学国際センター	全章	嶋田知英 武藤洋介 増富祐司 竹内庸夫	H25	216頁
ストップ温暖化・さいたまナビゲーション2050推進事業 埼玉県温室効果ガス排出量推計報告書 2011年度速報値	埼玉県環境部温暖化対策課 埼玉県環境科学国際センター	全章	嶋田知英 武藤洋介 増富祐司 竹内庸夫	H25	216頁
ストップ温暖化・さいたまナビゲーション2050推進事業 埼玉県温度実態調査報告書(平成24年度)	埼玉県環境部温暖化対策課 埼玉県環境科学国際センター	全章	嶋田知英 米倉哲志 増富祐司	H25	216頁
ストップ温暖化・さいたまナビゲーション2050推進事業 埼玉县市町村温室効果ガス排出量推計報告書 2011年度	埼玉県環境部温暖化対策課 埼玉県環境科学国際センター	全章	嶋田知英 武藤洋介 増富祐司 竹内庸夫	H25	217頁
第5次酸性雨全国調査報告書(平成23年度)	全国環境研協議会 酸性雨広域大気汚染調査研究部会	5.3 乾性沈着量の推計 (pp.114~119)	松本利恵	H25	217頁
希少野生生物保護事業報告書(平成24年度)	埼玉県環境科学国際センター	V 24年度試験結果 1 飼育下での繁殖試験 2 地下水の水温 3 地下水採取量 4 生息地における水質測定結果 5 生息地における底生動物調査 6 移植適地調査 7 生息地の環境改善の取り組み 8 ムサントミヨの天然記念物指定区間における現状変更に伴う生息環境復元状況 VI ムサントミヨ関係の動き VII ムサントミヨ分譲及び貸出状況 IX ムサントミヨに関する過去のできごと	金澤光	H25	217頁

5.4.7 書籍

(3件)

書籍名	出版社	執筆分担	執筆者	発行年
知っておきたいPM2.5の基礎知識	(一財)日本環境衛生センター	第1章「大気中微小粒子状物質による環境問題の経緯(pp.1~15)」	坂本和彦	H25

書籍名	出版社	執筆分担	執筆者	発行年
気候変動に適應する社会	技報堂出版	第3章「適應策」の取組みがはじまっている」 7節「日本の地方自治体の取組み事例3-先行する埼玉県からの報告-」 コラム1「新聞記事に見る「温暖化」の定着」 コラム4「気候変動の影響評価手法を解説します」 コラム8「気候変動の農作物への影響を学ぶ高校生」 コラム11「とても低い日本の野菜の産地多様性」	嶋田知英 増富祐司 米倉哲志	H25
同位体環境分析	丸善出版(株)	8 同位体の人工有機化合物への応用	山下信義 ¹²⁾ 堀井勇一	H25

(注) 共同研究者の所属機関名は218ページに一覧にした。

5.4.8 センター報

(3件)

種別	課題名	執筆者	掲載号
資料	温熱環境指標WBGTの簡易推計と埼玉県をモデルとした熱中症予防のための情報発信手法の検討	米倉哲志、松本利恵、嶋田知英、増富祐司、米持真一、竹内庸夫	第13号、77-81 (2013)
資料	元小山川の環境基準点における河川水中ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)濃度の推移	茂木守、野尻喜好、細野繁雄、杉崎三男	第13号、82-84 (2013)
資料	利根川水系ホルムアルデヒド水質事故における対応の記録	高橋基之、田中仁志、木持謙、見島伊織、柿本貴志、池田和弘、野尻喜好、茂木守、細野繁雄	第13号、85-91 (2013)

5.5 講師・客員研究員等

(1) 大学非常勤講師

(13件)

期 日	講 義 内 容	講義場所	氏 名
H25年度	埼玉大学環境科学研究センター客員教授	埼玉大学	坂本和彦
H25年度前期	埼玉大学大学院理工学研究科連携教授(連携大学院) 「海洋環境学特論」	埼玉大学	木幡邦男
H25年度後期	埼玉大学大学院理工学研究科連携教授(連携大学院) 「流域における水・物質循環特論」	埼玉大学	木幡邦男
H25年度前期	埼玉大学工学部非常勤講師 「化学序説」	埼玉大学	米持真一
H25年度後期	高崎経済大学地域政策学部非常勤講師 「物質と環境／自然科学概論」	高崎経済大学	長谷川就一
H25年度	埼玉大学大学院理工学研究科連携准教授(連携大学院) 「自然環境評価特論」「大気環境測定演習」「汚染負荷評価」	埼玉大学、 環境科学国際 センター	三輪誠
H25年度後期	埼玉大学工学部非常勤講師 「材料循環工学」	埼玉大学	磯部友護 柿本貴志
H25年度後期	埼玉大学工学部非常勤講師 「水環境学」	埼玉大学	柿本貴志 池田和弘 田中仁志 木持謙
H25年度後期	東洋大学理工学部非常勤講師 「水環境化学／水環境学」	東洋大学	高橋基之
H25. 11. 18	早稲田大学大学院創造理工学研究科招聘講師 「健全な水循環と水源保全」	早稲田大学	高橋基之
H26. 1. 14	明星大学理工学部非常勤講師 「アジア地域における水環境の現状と保全・修復のための国際協力」	明星大学	木持謙
H25年度	埼玉大学大学院理工学研究科連携准教授(連携大学院) 「環境計測学」「水環境汚染評価」「土壌地下水汚染特論」	埼玉大学	石山高
H25年度後期	日本大学文理学部非常勤講師 「環境地質学」	日本大学	八戸昭一

(2) 客員研究員

(18件)

相 手 機 関	委 嘱 期 間	氏 名
独立行政法人 国立環境研究所	H25. 4. 1～H26. 3.31	木幡邦男
独立行政法人 国立環境研究所	H25. 4. 1～H26. 3.31	増富祐司
独立行政法人 国立環境研究所	H25. 4. 1～H26. 3.31	長谷川就一
中国遼寧大学環境学院	H22. 1. 1～H26.12.31	王効拳
中国上海大学	H22. 6. 1～H25. 6.30	王効拳
中国遼寧石油化大学生態環境研究院	H24.10. 1～	王効拳
独立行政法人 国立環境研究所	H25. 6. 3～H26. 3.31	渡辺洋一
独立行政法人 国立環境研究所	H25. 6. 3～H26. 3.31	長森正尚
独立行政法人 国立環境研究所	H25. 6. 3～H26. 3.31	川寄幹生
独立行政法人 国立環境研究所	H25. 6. 3～H26. 3.31	長谷隆仁
独立行政法人 国立環境研究所	H25. 6. 3～H26. 3.31	磯部友護
独立行政法人 国立環境研究所	H25. 4. 1～H25.11.30	鈴木和将
独立行政法人 産業技術総合研究所	H24. 4. 2～H26. 3.31	堀井勇一
独立行政法人 国立環境研究所	H25. 4. 1～H26. 3.31	木持謙
独立行政法人 国立環境研究所	H25. 4. 1～H26. 3.31	渡邊圭司
立命館大学	H25. 4. 1～H26. 3.31	見島伊織

相手機関	委嘱期間	氏名
東京大学地震研究所	H25. 4. 1～H26. 3.31	濱元栄起
総合地球環境学研究所	H25. 4. 1～H26. 3.31	濱元栄起

(3) 国、地方自治体の委員会等の委員委嘱

(48件)

委員会等の名称	委嘱機関	委嘱期間	氏名
中央環境審議会	環境省	H25.2.8～H27.2.7	坂本和彦
中央環境審議会大気・騒音振動部会	環境省水・大気環境局	H25.2.14～H27.2.7	坂本和彦
中央環境審議会大気環境部会自動車排出ガス専門委員会	環境省水・大気環境局	H25.3.13～H27.2.7	坂本和彦
中央環境審議会大気騒音・振動部会微小粒子状物質等専門委員会	環境省水・大気環境局	H26.2.19～H27.2.7	坂本和彦
光化学オキシダント調査検討会	環境省水・大気環境局	H25.8.13～H26.3.31	坂本和彦
常時監視に関する事務処理基準の改定に向けたPM2.5測定値等に関する検討会	環境省水・大気環境局	H26.1.15～H26.3.26	坂本和彦
大気中微小粒子状物質成分測定マニュアル検討会	環境省水・大気環境局	H26.1.25～H26.3.26	坂本和彦
揮発性有機化合物(VOC)由来の二次生成有機粒子分析方法開発検討会	環境省水・大気環境局	H25.11.28～H26.3.28	坂本和彦
PM2.5排出インベントリ及び発生源プロファイル策定検討会	環境省水・大気環境局	H25.11.7～H26.3.24	坂本和彦
PM2.5専門家会合	環境省水・大気環境局	H25.9.17～H26.3.31	坂本和彦
微小粒子状物質(PM2.5)二次生成粒子の挙動解明に関する文献調査検討会	環境省水・大気環境局	H25.10.2～H26.3.28	坂本和彦
大気環境監視精度管理実態調査(SPM等)に係る検討会	環境省水・大気環境局	H25.3.3～H26.3.31	坂本和彦
微小粒子状物質(PM2.5)に関する専門会合	環境省水・大気環境局	H25.2.13～H26.3.31	坂本和彦
環境技術実証事業運営委員会	環境省総合環境政策局	H25.5.14～H26.3.29	坂本和彦
環境影響審査助言委員会	環境省総合環境政策局	H25.7.10～H26.3.31	坂本和彦
環境影響評価法に基づく基本的事項に関する技術検討委員会	環境省総合環境政策局	H26.1.20～H26.3.31	坂本和彦
環境技術実証事業VOC等簡易測定技術分野技術実証検討会	環境省総合環境政策局	H25.6.24～H26.3.31	坂本和彦
南極環境実態把握モニタリング事業検討委員会	環境省自然環境局	H25.11.1～H26.3.31	坂本和彦
さいたま市環境影響評価技術審議会	さいたま市環境局	H23.7.8～H25.7.7	坂本和彦
大気環境モニタリング検討会	東京都環境局	H25.4.15～H27.4.14	坂本和彦
千葉県環境審議会	千葉県環境生活部	H23.7.12～H25.7.11	坂本和彦
千葉県環境審議会	千葉県環境生活部	H25.7.12～H27.7.11	坂本和彦
川崎市環境審議会	川崎市環境局	H24.3.1～H26.2.28	坂本和彦
川崎市環境審議会	川崎市環境局	H26.3.1～H27.2.28	坂本和彦
中央環境審議会専門委員	環境省水・大気環境局	H23.10.12～	木幡邦男
有明海・八代海等再生評価支援(有明海二枚貝類の減少要因解明等調査)業務にかかる検討委員会	環境省水・大気環境局	H25.5.29～H26.3.31	木幡邦男
皇居外苑濠水質管理検討会	環境省自然環境局	H25.6.17～H26.3.31	木幡邦男
下層DO及び透明度新規環境基準化検討会	環境省水・大気環境局	H25.10.7～H26.3.25	木幡邦男
生活環境項目新規基準等検討会	環境省水・大気環境局	H25.9.17～H26.3.20	木幡邦男
春日部市環境審議会	春日部市環境経済部	H24.5.1～H26.4.30	木幡邦男

委員会等の名称	委嘱機関	委嘱期間	氏名
さいたま市環境影響評価技術審議会	さいたま市環境局	H25.5.27～H27.5.26	木幡邦男
光化学オキシダント調査検討会	環境省水・大気環境局	H25.8.20～H26.3.31	竹内庸夫
臭気判定士試験委員会	環境省水・大気環境局	H25.4.18～H27.3.31	梅沢夏実
気候変動に関する科学的情報の整理及び提供に関する検討業務における専門家委員会	環境省総合環境政策局	H25.9.2～H26.3.31	嶋田知英
生物多様性かぞ戦略策定検討委員会	加須市環境安全部	H25.9.17～	嶋田知英
国内データ検証グループ	環境省水・大気環境局	H25.7.10～H26.3.31	松本利恵
さいたま市廃棄物処理施設専門委員会	さいたま市環境局	H24.4.1～H26.3.31	松本利恵
常時監視に関する事務処理基準の改正に向けたPM2.5測定値等に関する検討会	環境省水・大気環境局	H26.1.15～H26.3.26	米持真一
有害大気汚染物質測定方法検討調査検討会	環境省水・大気環境局	H26.1.15～H26.3.20	米持真一
微小粒子状物質(PM2.5)二次生成粒子の挙動解明に関する文献調査検討会	環境省水・大気環境局	H25.10.7～H26.3.28	米持真一
大気環境監視精度管理実態調査(SPM等)に係る検討会	環境省水・大気環境局	H25.3.5～H26.3.21	米持真一
揮発性有機化合物(VOC)由来の二次生成有機粒子の分析方法開発検討会	環境省水・大気環境局	H25.11.29～H26.3.28	佐坂公規
微小粒子状物質等疫学調査研究検討会	環境省水・大気環境局	H25.6.26～H26.3.28	長谷川就一
微小粒子状物質等疫学調査実施班	環境省水・大気環境局	H25.6.26～H26.3.28	長谷川就一
大気中微小粒子状物質成分測定マニュアル検討会	環境省水・大気環境局	H26.1.21～H26.3.26	長谷川就一
微小粒子状物質等大気汚染物質に係る毒性学調査研究に係る検討会	環境省水・大気環境局	H25.10.1～H26.3.20	長谷川就一
大腸菌数環境基準検討会	環境省水・大気環境局	H25.11.12～H26.3.25	高橋基之
地質情報の整備及び利用促進に関する検討会	経済産業省産業技術環境局	H25.4.1～H25.4.24	八戸昭一

(4) 研修会・講演会等の講師

(167件)

期日	名称	開催場所	氏名
H25. 4. 4	彩の国いきがい大学伊奈学園 「日常生活と水環境」	環境科学国際センター	木持謙
H25. 4. 22	山西農業大学特別講演 「日本における農業環境の保全」 「枯草焼却から発生するPM1の特徴」	中国山西農業大学	王効拳 米持真一
H25. 4. 26	安心安全研究会公開セミナー 「微小粒子状物質PM2.5の現状と今後の課題」	東京都千代田区	米持真一
H25. 4. 27	環境教育支援ネットワーク「きづきわいがや勉強&交流会 「微小粒子状物質(PM2.5)汚染の現状と課題」	志木市	坂本和彦
H25. 4. 28	越辺川標識アユ放流指導	毛呂山町	金澤光
H25. 4. 28	高麗川標識アユ放流指導	坂戸市	金澤光
H25. 5. 2	槻川・都幾川標識アユ放流指導	ときがわ町	金澤光
H25. 5. 2	彩の国いきがい大学伊奈学園 「埼玉の湧水と名水」	環境科学国際センター	高橋基之
H25. 5. 3	The 27th Conference on Environmental Analytical Chemistry "Recent fine particle pollution and measurement of PM2.5 in Japan"	中華民国桃園市中壢市	坂本和彦
H25. 5. 8	埼玉県市町村職員研修 騒音振動測定実習	熊谷市	濱元栄起
H25. 5. 10	加須市食生活改善推進員協議会騎西支部 「微小粒子状物質PM2.5」	環境科学国際センター	長谷川就一

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H25. 5. 10	埼玉県市町村職員研修 騒音振動測定実習	さいたま市	濱元栄起
H25. 5. 11	アサガオ調査説明会	環境科学国際センター	三輪誠
H25. 5. 12	アサガオ調査説明会	環境科学国際センター	三輪誠
H25. 5. 15	アサガオ調査説明会	狭山市	三輪誠
H25. 5. 16	彩の国いきがい大学春日部学園 「埼玉の水環境」	春日部市	見島伊織
H25. 5. 29	電気硝子工業会第39回技術セミナー 「微小粒子状物質(PM2.5)の発生と対策」	東京都新宿区	坂本和彦
H25. 5. 30	廃棄物資源循環学会第1回講演会－震災廃棄物のリサイクル 「リサイクルとアスベスト問題」	川崎市	川寄幹生
H25. 5. 31	廃棄物資源循環学会研究討論会 「建材・ガレキ中の石綿の迅速判定方法－石綿含有建材目視判定法の確立－」	川崎市	川寄幹生
H25. 6. 1	自然体験イベント ((公財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構、埼玉日本電気(株)主催) 「里川保全活動」	本庄市	金澤光 木持謙
H25. 6. 5	県民環境学習会:PM2.5の真実! 「粒子状物質による大気汚染の変遷と現状」 「PM2.5の基礎知識」	さいたま市	坂本和彦 長谷川就一
H25. 6. 6	東京リンテック加工(株)職員研修会 「生物多様性とその保全の概要」	蕨市	嶋田知英
H25. 6. 7	大気環境学会関東支部総会・講演会 「大気中における微小粒子状物質(PM2.5)の動態」	東京都江東区	坂本和彦
H25. 6. 11	松山高校SS科学探究Ⅰ 「私たちの生活と化学物質(環境編)」	埼玉県立松山高校	野尻喜好
H25. 6. 11	川の国応援団出前講座 「身近な水の性質を調べてみよう」	秩父市立高篠小学校	高橋基之
H25. 6. 12	本庄市立藤田小学校総合学習 河川調査講師	本庄市	金澤光
H25. 6. 14	春日部市庄和地区市民大学 「埼玉県の大気環境」	春日部市	梅沢夏実
H25. 6. 14	秋田県立横手清陵高校スーパーサイエンスハイスクール講師 「温暖化影響把握のための簡易加温チャンバーの使用および分析方法」	秋田県立横手清陵高校	米倉哲志
H25. 6. 15	アサガオ調査説明会	環境科学国際センター	三輪誠
H25. 6. 18	平成25年度調査研究事業「持続可能な開発のための教育(ESD)の実践に関する調査研究」第1回研究協力委員会 「これからの環境教育に必要な視点について－今日の環境問題と視点－」	熊谷市	坂本和彦
H25. 6. 18	川越市北公民館ゆう遊学級講座 「埼玉の湧水と名水」	川越市	高橋基之
H25. 6. 19	藤田小学校総合学習 「元小山川と小山川の魚類相の違いについて」	本庄市立藤田小学校	金澤光
H25. 6. 19	彩の国いきがい大学伊奈学園 「埼玉の水環境と里川の再生」	伊奈町	高橋基之
H25. 6. 20	農地・水環境保全事業(桶川市篠津水辺隊生きもの調査)講師	桶川市	金澤光
H25. 6. 23	柳瀬川自然学習会講師	富士見市、所沢市	金澤光
H25. 6. 25	彩の国いきがい大学熊谷学園 「地球温暖化について」	環境科学国際センター	竹内庸夫
H25. 6. 26	鴻巣市立川里中学校総合学習 「地球のなりたち」	環境科学国際センター	濱元栄起
H25. 6. 28	彩の国いきがい大学春日部学園 「自然保護について考える」	春日部市	嶋田知英
H25. 6. 28	上里東小学校PTA研修会 「微小粒子状物質PM2.5」	上里町立上里東小学校	米持真一
H25. 6. 30	コープみらい 田んぼの生きもの調査講師	川島町	金澤光
H25. 6. 30	河川環境管理財団 生きもの調査講師	長瀨町	金澤光

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H25. 7. 4	ムサントミヨ保全推進協議会総会 「平成24年度ムサントミヨ保護事業について」	熊谷市	金澤光
H25. 7. 6	自然体験イベント ((公財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構、埼玉日本電気(株)主催) 「里川保全活動」	本庄市	金澤光 木持謙
H25. 7. 7	小川町下里地区 「田んぼのいきもの観察会」	小川町	嶋田知英
H25. 7. 11	大気規制に係る測定方法等研修会(大気環境課) 「ばい煙測定方法の概要、留意点及び測定データの読み方」 「石綿の分析方法の概要、実地研修」 「VOCの測定方法の概要、実地研修」 「ダイオキシン類の分析方法に係る留意点及び測定結果の見方等」	環境科学国際センター	竹内庸夫 佐坂公規 大塚宜寿
H25. 7. 12	母子愛育班研修 「日常生活と水環境」	環境科学国際センター	木持謙
H25. 7. 15	県民実験教室 「大気の性質を調べてみよう」	環境科学国際センター	松本利恵 佐坂公規
H25. 7. 16	ムサントミヨをまもる会総会 「平成24年度ムサントミヨ保護事業について」	熊谷市	金澤光
H25. 7. 17	平成25年度さいたま市環境研修会 「粒子状物質汚染の変遷:PM2.5汚染の現状と対策」	さいたま市	坂本和彦
H25. 7. 18	地下水汚染未然防止研修会(水環境課)	さいたま市	八戸昭一
H25. 7. 19	立命館大学工学部環境都市系学生のためのスタートアップセミナー 「目指せ技術者！環境都市編」	立命館大学	見島伊織
H25. 7. 20	環境科学国際センター 夏休み特別企画 「川の生物で環境調査をしよう」	環境科学国際センター	田中仁志
H25. 7. 23	JICA草の根技術協力事業 廃棄物処理セミナー 「日本の廃棄物処理の概要」「廃棄物処理関係法体系」 「分別収集の取組」「ごみの有料化」「廃棄物の中間処理」 「最終処分」「焼却残さの資源化」	中国山西省太原市	倉田泰人 王効挙 鈴木和将
H25. 7. 24	夏休み特別企画 「サイエンスショー 化学反応！」	環境科学国際センター	大塚宜寿 養毛康太郎
H25. 7. 26	彩の国いきがい大学熊谷学園 「埼玉の里川」	熊谷市	高橋基之
H25. 7. 27	彩の国環境大学修了生の会第1回例会 「大気汚染と植物」	朝霞市	米倉哲志
H25. 7. 28	環境科学国際センター夏休み特別企画 「身近な水の性質を調べてみよう」	環境科学国際センター	見島伊織 渡邊圭司
H25. 7. 30	環境教育プログラムコーディネート研修会(総合教育センター江南支所) 「これからの環境教育に必要な視点についてー今日の環境問題と視点ー」「生態園観察会」「アサガオ調査(光化学オキシダントの影響を調べる)」	環境科学国際センター	坂本和彦 嶋田知英 三輪誠
H25. 7. 30-31	環境学習教材開発研修会(総合教育センター江南支所) 講義・実習「大気の調査」 「生物多様性とその保全」「生態園観察会」 講義・実習「身近な環境水の水質調査」	環境科学国際センター	梅沢夏実 松本利恵 佐坂公規 嶋田知英 木持謙 柿本貴志
H25. 7. 30	日中水環境技術交流会in浙江省 「日本における下水汚泥処理の現状と対策」 「工場排水の処理技術Ⅰー製紙工場等の排水処理ー」 「工場排水の処理技術Ⅱーアンモニア窒素の除去技術ー」	中国浙江省嘉興市	王効挙 池田和弘
H25. 8. 1	加須市環境政策課主催「浮谷の里」自然観察会(水生生物観察)	加須市	田中仁志 木持謙 渡邊圭司

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H25. 8. 2	加須市環境政策課主催「浮谷の里」自然観察会(昆虫観察) 「川や用水の生き物調査」	加須市	嶋田知英
H25. 8. 3	生態園体験教室 「昆虫標本作り」	環境科学国際センター	嶋田知英
H25. 8. 4	高麗川アユ地曳網漁指導	日高市	金澤光
H25. 8. 6	行田市小中学校環境教育主任研修会 「微小粒子状物質PM2.5」	環境科学国際センター	長谷川就一
H25. 8. 6	JICA集団研修「地方自治体における廃棄物処理(B)」 「最終処分場の環境汚染対策」	環境科学国際センター	川崎幹生
H25. 8. 6	埼玉県公立高等学校事務職員会東部支部事務研究大会 「地球のなりたち」	環境科学国際センター	濱元栄起
H25. 8. 7	東京電機大学 生態園観察会	環境科学国際センター	嶋田知英
H25. 8. 7	夏休み特別企画 「サイエンスショー 化学反応！」	環境科学国際センター	大塚宜寿 蓑毛康太郎
H25. 8. 8	九都県市適応策研究会 「温暖化簡易推計ツールについて」	さいたま市	嶋田知英
H25. 8. 9	広瀬寿大学・環境講座 「埼玉県の大気環境」	狭山市	梅沢夏実
H25. 8. 10	川の探検隊講師(本庄県土整備事務所主催)	本庄市	金澤光 木持謙
H25. 8. 15	身近な環境観察局新規応募者研修会	環境科学国際センター	嶋田知英
H25. 8. 17	都幾川アユ地曳網漁指導	嵐山町	金澤光
H25. 8. 19	中学校10年経験者研修 「地球環境問題の概要」	行田市	竹内庸夫
H25. 8. 21	夏休み特別企画 「サイエンスショー 化学反応！」	環境科学国際センター	大塚宜寿 蓑毛康太郎
H25. 8. 24	彩の国環境大学平成25年度開講式公開講座 「PM2.5(微小粒子状物質)の発生と環境影響」	環境科学国際センター	坂本和彦
H25. 8. 31	飯盛川生きもの調査講師	鶴ヶ島市	金澤光
H25. 9. 4	彩の国いきがい大学伊奈学園 「大気汚染の現状と課題」	伊奈町	竹内庸夫
H25. 9. 4	室内環境学会第1回講演会 「北京市のPM2.5測定データと日本への影響」	千葉市	米持真一
H25. 9. 5	紙パルプ技術協会第20回環境セミナー 「微小粒子状物質(PM2.5)についてー発生と制御ー」	東京都北区	坂本和彦
H25. 9. 6	彩の国いきがい大学熊谷学園 「埼玉の地盤環境」	熊谷市	八戸昭一
H25. 9. 11	すぎなみ環境ネットワーク環境学習 「大気汚染と植物」	環境科学国際センター	三輪誠
H25. 9. 17	第20回全国越境汚染・酸性雨対策連絡会議 「微小粒子状物質(PM2.5)の現状と課題」	新潟市	坂本和彦
H25. 9. 21	本庄こども大学講師 ふるさと学「川に入って魚を捕まえよう」	本庄市	金澤光
H25. 9. 25	古谷女性セミナー 「埼玉県の大気環境」	川越市	竹内庸夫
H25. 9. 27	御殿場市小山町防火安全協会研修 「中国の環境は今どうなっているか？日本への影響は？」	環境科学国際センター	王効挙
H25. 9. 29	入間川・川のまるごと再生・寺山堰地曳網漁指導	川越市	金澤光
H25. 9. 30 -10. 1	公害防止主任者資格認定講習(大気関係)	さいたま市	梅沢夏実 佐坂公規 長谷川就一
H25. 10. 3	公害防止主任者資格認定講習(ダイオキシン類関係)	さいたま市	蓑毛康太郎
H25. 10. 5	彩の国環境大学基礎課程 「埼玉県の温暖化の実態とその影響」	環境科学国際センター	嶋田知英

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H25. 10. 6	男堀川里川保全活動調査講師((公財)本庄国際リサーチパーク研究推進機構、埼玉日本電気(株)主催)	本庄市	金澤光
H25. 10. 6	第9回川の日ワークショップ関東大会選考委員 「埼玉県に生息する魚類について」	東京農業大学	金澤光
H25. 10. 8	長野県農林部局との意見交換会「温暖化に対応するための技術開発と農業現場への適応について」 「白未熟粒発生率推計モデルの開発」	須坂市	増富祐司
H25. 10. 9	川越西高等学校出前講座 「中国の環境は今どうなっているか？日本への影響は？」	県立川越西高等学校	王効挙
H25. 10. 11	公害防止主任者資格認定講習(騒音・振動関係)	さいたま市	白石英孝 濱元栄起
H25. 10. 12	彩の国環境大学基礎課程 「気になる暮らしの化学物質」	環境科学国際センター	野尻喜好
H25. 10. 15	水質異常研修会講師(水環境課主催)	滑川町	金澤光
H25. 10. 19	環境制御シンポジウム2013 「大気環境の改善を目指して～皆さんと歩んだ33年+ α ～微小粒子状物質(PM _{2.5})の現状と課題」	東京都新宿区	坂本和彦
H25. 10. 20	並木草の根ネットワーク秋のお楽しみ会 「地球温暖化(影響と対策)」	川口市	嶋田知英
H25. 10. 22	特定計量証明事業管理者講習 「ダイオキシン類の概要」	つくば市	大塚宜寿
H25. 10. 23	本庄市立藤田小学校総合学習河川調査講師	本庄市	金澤光
H25. 10. 25	一般社団法人日本鉄鋼協会第68回コークス部会 「国内におけるPM _{2.5} の実態と課題」	福山市	長谷川就一
H25. 10. 26	東町幸彩会環境セミナー 「地球環境問題の概要」	越谷市	竹内庸夫
H25. 10. 26	彩の国環境大学基礎課程 「健全な水循環と里川の再生」	環境科学国際センター	高橋基之
H25. 10. 28	平成25年度ごみゼロ社会推進あいち県民フォーラム 「廃棄物のアスベスト対策」	名古屋市	川寄幹生
H25. 10. 29	彩の国いきがい大学伊奈学園 「大気汚染の現状と課題」	伊奈町	竹内庸夫
H25. 10. 29	神川町旧議員倶楽部研修 「微小粒子状物質PM _{2.5} 」	環境科学国際センター	米持真一
H25. 10. 30	藤田小学校総合学習講師 「元小山川と小山川の魚類相の違いについて」	本庄市立藤田小学校	金澤光
H25. 10. 30-31	公害防止主任者講習(水質関係) 「汚水処理技術一般」「測定技術」	さいたま市	高橋基之 田中仁志 池田和弘 渡邊圭司
H25. 11. 1	藤五精機(株)環境一般教育(ISO) 「中国の環境は今どうなっているか？日本への影響は？」	三郷市	王効挙
H25. 11. 1	NPO法人環境とエネルギー 環境とエネルギーセミナー 「地中熱エネルギーの利用」	さいたま市	濱元栄起
H25. 11. 2	彩の国環境大学基礎課程 「埼玉県の大气環境」	環境科学国際センター	竹内庸夫
H25. 11. 3	平成25年度全国環境研協議会廃棄物資源循環学会年会併設 研究発表会情報交換会 「処分場・再生材の問題事例と求められる試験法」	北海道大学	渡辺洋一
H25. 11. 5	平成25年度埼玉県LPガス卸売協議会講習会 「燃料燃焼と大気汚染-PM _{2.5} の現状と対策」	さいたま市	坂本和彦
H25. 11. 6	彩の国いきがい大学伊奈学園 「生物多様性とその保全」	伊奈町	嶋田知英
H25. 11. 6	大気環境行政に携わる職員向け研修会(神奈川県公害防止推進協議会) 「PM _{2.5} およびPM ₁ を対象とした日中韓の国際研究協力」	川崎市	米持真一

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H25. 11. 7	ものづくり大学講義 「地球環境問題の概要」	環境科学国際センター	竹内庸夫
H25. 11. 7	JICA集団研修「地方自治体における廃棄物処理(A) 「最終処分場の環境汚染対策」	横浜市	川寄幹生
H25. 11. 14	県民の日特別企画 「サイエンスショー -196℃の世界」	環境科学国際センター	梅沢夏実 佐坂公規
H25. 11. 16	本庄市民大学講座 「元小山川の生きもの調査」	本庄市	金澤光
H25. 11. 19	上尾市環境推進協議会環境問題学習会 「今、地球に何が起きているのか」	上尾市	竹内庸夫
H25. 11. 19	かわごえの生物多様性講座 「生物多様性とその保全の概要」	環境科学国際センター	嶋田知英
H25. 11. 20	化学物質地域研修会 「熊谷工業団地周辺の大気環境調査結果(平成24年度調査結果)」	熊谷市	茂木守
H25. 11. 21	東松山市きらめき市民大学 「埼玉県の大气環境」	東松山市	竹内庸夫
H25. 11. 26	公益社団法人東京電気管理技術者協会埼玉支部熊谷地区定例会 「微小粒子状物質PM2.5」	深谷市	長谷川就一
H25. 11. 27	元小山川流域生活排水対策推進協議会 「埼玉県の水環境について」	本庄市	見島伊織
H25. 11. 29	東松山地区青年農業者研究大会講演 「埼玉県における温暖化の状況と農業に与える影響」	東松山市	嶋田知英
H25. 11. 29 12. 1	平成25年度浄化槽総合講習会 「浄化槽技術者のための排水処理工学の概要－生物処理とBOD測定－」	環境科学国際センター	見島伊織
H25. 11. 30	川の国埼玉検定 中・上級編講義	さいたま市	高橋基之
H25. 12. 1	加須市子ども会出前講座 「日常生活と水環境」	加須市	木持謙
H25. 12. 3	化学物質地域研修会 「東埼玉テクノポリス(吉川市・松伏町)周辺の大気環境調査結果(平成24年度調査結果)」	越谷市	茂木守
H25. 12. 9	羽生市第1回環境講座 「生き物から見た水環境－水生生物を用いた水質調査－」	羽生市	田中仁志
H25. 12. 13	旭小学校旭環境学習会 「生物多様性」「地球温暖化」	本庄市立旭小学校	嶋田知英 竹内庸夫
H25. 12. 13	生活クラブ生協熊谷ブロック環境平和委員会 NO2学習会 「埼玉県の大气環境」	熊谷市	梅沢夏実
H25. 12. 14	日中韓FTA民間ハイレベルフォーラム－東アジア大気汚染対策・環境産業国際協力サミット－ 「日本の大気汚染対策と東アジアにおけるコベネフィットアプローチ」	中国河北省廊坊市香河 県	坂本和彦
H25. 12. 14	彩の国環境大学修了生の会 「土壌汚染と植物による修復」 「光触媒って何？(その作用と特徴)」	さいたま市	王効挙 米持真一
H25. 12. 19	立命館大学理工学部環境システム工学科キャリアデザイン企画 「公務・研究分野の紹介」	立命館大学	見島伊織
H26. 1. 10	彩の国いきがい大学春日部学園 「地球温暖化に対する取組と課題」	春日部市	竹内庸夫
H26. 1. 11	日本工業大学環境特別講演会 「正しく知ろうPM2.5～埼玉の状況と最新の研究」	日本工業大学	米持真一
H26. 1. 15	OECC((一社)海外環境協力センター)会員交流会 「中国山西省における最終処分場浸出水水質改善に向けて～PRB処理技術適用の検討～」	東京都千代田区	倉田泰人

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H26. 1. 19	低炭素まちづくりフォーラムin埼玉 「生物多様性と絶滅危惧植物ミヤマスカシユリの保全」	秩父市	三輪誠
H26. 1. 20	彩の国いきがい大学鷺宮学園 「地球温暖化に対する取組と課題」	久喜市	嶋田知英
H26. 1. 22	さいたま市水環境ネットワーク講演会 「自然の力で水質浄化～生態工学の可能性～」	さいたま市	田中仁志
H26. 1. 24	いずみ高校 生態園観察会及び希少植物植物植え替え実習	環境科学国際センター	嶋田知英 三輪誠
H26. 1. 25	環境大学フォローアップ講座 「廃棄物処理・処分における最終処分場の重要性」	環境科学国際センター	長森正尚
H26. 1. 29	みどりの再生活動報告会 「生物多様性とその保全」 生態園観察会	環境科学国際センター	嶋田知英
H26. 1. 30	関東財務局健康講話 「微小粒子状物質PM2.5」	さいたま市	長谷川就一
H26. 1. 31	新春講演会(埼玉県環境計量協議会主催) 「粒子状物質(TSP・SPM・PM2.5)汚染と対策－成分測定的重要性－」	さいたま市	坂本和彦
H26. 2. 1	石綿問題総合対策研究会第2回研究会 「レベル3含有建材の調査の課題」 「石綿含有建材の目視評価方法」	東京工業大学	川寄幹生
H26. 2. 4	平成25年度埼玉県環境科学国際センター講演会 「土壌汚染と農産物 ～植物を用いた農地の修復技術の実用化に向けて～」 「有害廃棄物と生活環境 ～アスベスト廃棄物問題への技術アプローチ～」 「大気汚染と生活環境 ～PM2.5汚染の実態と解明のための最近の取組～」	さいたま市	王効拳 川寄幹生 米持真一
H26. 2. 7	首都圏・東部いい川づくり研修会講師 「埼玉県の河川環境特性について」	さいたま市	金澤光
H26. 2. 8	Japan-YWP第4回総会兼セミナー 「地環研から見た水環境」	東京都千代田区	見島伊織
H26. 2. 11	埼玉県地球温暖化防止活動推進員・新規推進員研修会 「地球温暖化の埼玉県への影響」	さいたま市	嶋田知英
H26. 2. 19	羽生市環境講座 「生き物から見た水環境－水生生物を用いた水質調査－」	羽生市	田中仁志
H26. 2. 21	JICA草の根技術協力事業 中日市政固体廃棄物処理処置技術 研討会 「日本における都市ごみの分別収集」 「建設廃棄物の再資源化と不法投棄」 「日本における下水処理汚泥の資源化」 「日本における都市ごみ焼却残さの処理・処分技術」	中国山西省太原市	倉田泰人 山崎和美 王効拳 鈴木和将
H26. 2. 26	彩の国シニア自然大学校 「地球環境と生活のつながり」「県民参加を主体とした光化学スモッグによるアサガオ被害調査」「生物多様性と絶滅危惧植物サトトラノオの保全」	環境科学国際センター	竹内庸夫 三輪誠
H26. 2. 26	全国都市清掃会議関東地区協議会清掃行政研究会 「一般廃棄物について－環境科学国際センターにおけるこれまでの取り組み－」	熊谷市	川寄幹生
H26. 2. 27	日中環境保全技術セミナー 「日本の大気汚染対策－粒子状物質を中心に－」 「River water environment management in Japan Waste water treatment technology in Japan」 「日本の汚水(排水)処理技術－窒素除去を中心に－」	中国山西大学	坂本和彦 高橋基之 見島伊織

期 日	名 称	開催場所	氏 名
H26. 3. 1	身近な環境観察局ワーキンググループ活動成果発表会 「微小粒子状物質PM2.5」 「光化学スモッグによるアサガオ被害調査結果報告」	環境科学国際センター	米持真一 三輪誠
H26. 3. 2	鴻巣市日中友好協会「中国ふるさと紹介」講演会 「中国の環境は今どうなっているか？日本への影響は？」	鴻巣市	王効拳
H26. 3. 4	東京酸性雨講演会 「オゾンの植物影響とそのリスク評価」	法政大学	米倉哲志
H26. 3. 5	平成25年度長野県環境保全研究所所内研修会 「微小粒子状物質 (PM2.5) の現状と今後の課題」	長野市	坂本和彦
H26. 3. 13	下館地区推進委員会リーダー研修会 「地球環境問題の概要」	環境科学国際センター	竹内庸夫
H26. 3. 15	第40回酸性雨問題研究会シンポジウム 「微小粒子物質の動的挙動ーガス／粒子平衡に関連してー」	慶應義塾大学	坂本和彦
H26. 3. 19	平成25年度湧水の保全・復活研究会（水環境課） 「新河岸川下流域湧水調査における水質分析結果」 「朝霞市代官水周辺地域における地形・地質環境と土地利用 変遷」	朝霞市	高橋基之 八戸昭一
H26. 3. 27	川の国アドバイザーフォローアップ研修会講師（水環境課） 「埼玉県に生息する魚類の現状と課題について」 「子供版みんなの川のチェックシートの策定について」	環境科学国際センター	金澤光 田中仁志

5.6 表彰

日本環境化学会 環境化学論文賞

大塚宜寿、蓑毛康太郎、野尻喜好

表彰理由

日本環境化学会の機関誌「環境化学」Vol.22、No.2、p.59-63(2012)に発表した論文「環境大気中ダイオキシン類モニタリングにおける年平均TEQの正確さ」が、極めて優秀で環境化学に関する学問分野に貢献するところ顕著であるとして、日本環境化学会環境化学論文賞を受賞した。本賞は、前年の「環境化学」に発表された原著論文の中から独創的かつ発展性のある論文の著者に授与されるものである。

全国環境研協議会 関東甲信静支部長表彰

野尻喜好

表彰理由

永年にわたり、ダイオキシン類、環境ホルモン、有機フッ素化合物等の微量有害化学物質調査及び分析法開発等に継続して携わり、分析業務における指導的役割を担ってきた。また、利根川水系におけるホルムアルデヒド検出問題において、原因物質であるヘキサメチレンテトラミンの高感度測定をいち早く開発し、河川水と原因事業場排水中の存在を明らかにするとともに、問題解決に大きく貢献した。